

I 2022年度 事業概要

定時社員総会報告

2022年度定時社員総会は、新型コロナウイルス感染症の感染状況等を勘案し、参加者及び関係者の健康・安全面を第一に考慮した結果、正会員の集合により開催してきた方法を変更して行った。事前に「議決権行使書」を含む定時社員総会関係資料一式を正会員へ送付し、その資料に基づき7月8日に「定時社員総会議事事項に関する説明会」をWeb開催し、審議事項・報告事項について説明と質疑を行った。その後、会長と理事・監事は7月30日の定時社員総会において「議決権行使書」の賛否を確認し審議事項について決定した。

開催日時：2022年7月30日（土曜日）午前10時00分から午前11時00分

開催場所：東京都千代田区神田須田町1-5 翔和須田町ビル2階 法人事務所

出席社員数：総社員数603名、総社員の議決権数603個、出席社員数475名（議決権行使書による）、出席社員の議決権数475個

定款第18条により、正会員603名中、議決権行使書提出者475名をもって総会が成立することが報告された。定款第17条により、定時社員総会の議長は河口てる子会長とし、定款22条により、議事録署名人は鳥袋香子理事と守田美奈子理事が指名された。

審議事項

【第1号議案 2021年度事業活動報告及び決算承認・監査報告に関する件】

第1号議案は468名の賛成を得て承認された。

【第2号議案 役員選任に関する件】

本定時社員総会の終結時をもって理事及び監事全員が任期満了となるため、改めて理事及び監事を選任する必要がある、役員候補者の選出について、各選挙区において選挙を行った結果、理事・監事及び補欠監事候補者が選出されたことの説明があった。補欠監事候補者については、監事は定員2名と定款で定めており、1名でも退任された場合に備えている。また理事次点者については、理事定員16名を欠けた場合に選任することとなるとの説明があった。

第2号議案は467個の賛成を得て、理事20名・監事2名及び補欠監事2名を選任することが承認された。

報告事項

1) 2022年度事業活動計画及び予算に関する件

- (1) 重点事業について
- (2) 2022年度事業活動計画
- (3) 2022年度予算

2) 規程の整備に関する件

2021年度 一般社団法人日本私立看護系大学協会 決算書

(2021年4月1日～2022年3月31日)

1. 一般会計収支決算書

(収入)

(単位：円)

科目	2021年度予算	執行額	予算残	執行率	備考
会費	59,400,000	59,400,000	0	100%	会費@300,000×198校 入会金@200,000×0校 新設校4校(学部)全て入会金免除 (3学部は同一大学による学部新設,1学部は短期大学改組)
銀行利息	1,000	569	431	57%	普通預金
預り金	2,800,000	2,748,502	51,498	98%	源泉所得税、住民税、社会保険料
敷金還付金	2,148,960	2,148,960	0	100%	全額還付
雑収入	5,000,000	5,912,480	△912,480	118%	事務所移転に伴う立ち退き料、研究助成金返金
(収入小計)	69,349,960	70,210,511	△860,551	101%	
前年度繰越金	44,449,313	44,449,313	0	100%	
合計	113,799,273	114,659,824	△860,551	101%	

(支出)

科目	2021年度予算	執行額	予算残	執行率	備考
事業費	57,057,000	44,860,586	12,196,414	79%	
大学教育委員会	757,000	354,173	402,827	47%	研修会運営補助費の削減
研究活動委員会	1,148,000	223,652	924,348	19%	新型コロナウイルス感染拡大により研修会開催方法をWeb開催に変更したことによる削減
研究助成事業	7,580,000	6,443,660	1,136,340	85%	
国際交流委員会	703,000	232,931	470,069	33%	研修会運営補助費の削減
大学運営・経営委員会	1,256,000	782,560	473,440	62%	研修会運営補助費と講師謝金辞退による削減
渉外委員会	260,000	28,514	231,486	11%	新型コロナウイルス感染拡大により関係諸団体への往訪を控えたことによる削減
広報委員会	603,000	600,822	2,178	99%	
人件費	8,600,000	7,522,171	1,077,829	87%	
消耗品費	1,400,000	871,929	528,071	62%	会長表彰記念品代割引による削減
旅費交通費	2,500,000	527,923	1,972,077	21%	新型コロナウイルス感染拡大による理事会等旅費の削減
通信費	750,000	177,434	572,566	24%	振込手数料、切手等の購入経費の削減
印刷費	2,500,000	1,676,048	823,952	67%	新型コロナウイルス感染拡大による研修会教材等印刷費の削減
賃借料	4,200,000	3,180,136	1,019,864	76%	
会議費	2,000,000	411,856	1,588,144	21%	新型コロナウイルス感染拡大による経費削減
業務委託費	2,800,000	1,838,084	961,916	66%	動画配信サーバー保守料の経費削減
シミュレーション教育開発費	20,000,000	19,988,693	11,307	99%	
管理費	21,410,000	19,003,929	2,406,071	89%	
人件費	6,800,000	6,785,933	14,067	99%	
消耗品費	3,500,000	2,683,878	816,122	77%	
光熱水費	620,000	427,018	192,982	69%	事務所移転に伴う光熱水費の削減
旅費交通費	300,000	29,120	270,880	10%	新型コロナウイルス感染拡大による選挙管理委員会旅費の削減
通信費	700,000	610,496	89,504	87%	
印刷費	600,000	288,741	311,259	48%	新型コロナウイルス感染拡大による会議資料等の印刷経費の削減
賃借料	3,200,000	2,825,500	374,500	88%	
会議費	100,000	4,794	95,206	5%	新型コロナウイルス感染拡大による選挙管理委員会費用の削減
業務委託費	2,830,000	2,670,952	159,048	94%	
敷金	2,110,000	2,109,240	760	99%	
保険料	550,000	497,857	52,143	91%	
租税公課	100,000	70,400	29,600	70%	収入印紙未購入のための削減
将来事業特別会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	100%	
維持管理特別会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	100%	
退職給付引当繰入金	583,000	581,176	1,824	99%	
預り金	2,800,000	2,714,889	85,111	97%	
前期末未払金	4,086,532	4,086,532	0	100%	
期末未払金	△1,060,000	△1,298,608	238,608	123%	
予備費	5,000,000	0	5,000,000	0%	
(支出小計)	91,876,532	71,948,504	19,928,028	78%	
次年度繰越金	21,922,741	42,711,320	△20,788,579	195%	
合計	113,799,273	114,659,824	△860,551	101%	

2. 特別会計収支決算書

(1) 2021年度将来事業特別会計

科目	2021年度予算	執行額	予算残	執行率	備考
前年度繰越金	10,259,915	10,259,915	0	100%	
繰入金	1,000,000	1,000,000	0	100%	
利息収益	0	91	△91	0%	
合計	11,259,915	11,260,006	△91	99%	

(2) 2021年度維持管理特別会計

科目	2021年度予算	執行額	予算残	執行率	備考
前年度繰越金	10,047,004	10,047,004	0	100%	
繰入金	1,000,000	1,000,000	0	100%	新事務所家賃増額のための繰り入れ
利息収益	16,000	15,668	332	98%	
合計	11,063,004	11,062,672	332	99%	

2022年度 一般社団法人日本私立看護系大学協会予算書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

1. 一般会計予算

(収入)

(単位:円)

科目	2022年度予算	2021年度予算	差異	備考
会費	61,100,000	59,400,000	1,700,000	会費@ 300,000 × 201校、入会金@ 200,000 × 4校
銀行利息	1,000	1,000	0	普通預金
預り金	2,850,000	2,800,000	50,000	源泉所得税、住民税、社会保険料等
敷金還付金	0	2,148,960	△ 2,148,960	全額還付
雑収入	0	5,000,000	△ 5,000,000	事務所移転に伴う立ち退き料
(収入小計)	63,951,000	69,349,960	△ 5,398,960	
前年度繰越金	42,711,320	44,449,313	△ 1,737,993	
合計	106,662,320	113,799,273	△ 7,136,953	

(支出)

科目	2022年度予算	2021年度予算	差異	備考
事業費	39,992,000	57,057,000	△ 17,065,000	
大学教育委員会	427,000	757,000	△ 330,000	
研究活動委員会	298,000	1,148,000	△ 850,000	
研究助成事業	7,345,000	7,580,000	△ 235,000	
国際交流委員会	293,000	703,000	△ 410,000	
大学運営・経営委員会	1,340,000	1,256,000	84,000	
渉外委員会	196,000	260,000	△ 64,000	
広報委員会	2,743,000	603,000	2,140,000	動画配信ページ改修経費
人件費	8,900,000	8,600,000	300,000	事務局人件費等
消耗品費	2,000,000	1,400,000	600,000	会長表彰記念品等
旅費交通費	2,000,000	2,500,000	△ 500,000	理事会旅費等
通信費	750,000	750,000	0	振込手数料、切手、会長表彰送付等
印刷費	2,200,000	2,500,000	△ 300,000	会報、年次報告書印刷費等
賃借料	4,000,000	4,200,000	△ 200,000	事務所賃料等
会議費	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	総会、理事会 (Zoom) 等
業務委託費	1,500,000	2,800,000	△ 1,300,000	動画配信サーバー保守料、シミュレーション教育教材追発送費等
特別事業(地区活動経費)	5,000,000	20,000,000	△ 15,000,000	シミュレーション教育開発費 (2021)
管理費	14,440,000	21,410,000	△ 6,970,000	
人件費	7,200,000	6,800,000	400,000	事務局人件費等
消耗品費	1,000,000	3,500,000	△ 2,500,000	文具、会計ソフト等
光熱水費	500,000	620,000	△ 120,000	事務所光熱水費
旅費交通費	150,000	300,000	△ 150,000	選挙管理委員会旅費等
通信費	700,000	700,000	0	切手、郵送費、電話、振込手数料等
印刷費	500,000	600,000	△ 100,000	コピー機利用料等
賃借料	3,200,000	3,200,000	0	事務所賃料、リース料等
会議費	50,000	100,000	△ 50,000	選挙管理委員会等
業務委託費	1,000,000	2,830,000	△ 1,830,000	司法書士顧問料、公認会計士委託契約料等
敷金	0	2,110,000	△ 2,110,000	新事務所敷金 (2021)
保険料	50,000	550,000	△ 500,000	事務所家賃保証料
租税公課	90,000	100,000	△ 10,000	法人住民税、収入印紙等
将来事業特別会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	
維持管理特別会計繰入金	0	1,000,000	△ 1,000,000	
退職給付引当繰入金	616,000	583,000	33,000	
預り金	2,850,000	2,800,000	50,000	源泉所得税、住民税、社会保険料等
前期末未払金	1,298,608	4,086,532	△ 2,787,924	
期末未払金	△ 1,300,000	△ 1,060,000	△ 240,000	
予備費	5,000,000	5,000,000	0	
(支出小計)	63,896,608	91,876,532	△ 27,979,924	
次年度繰越金	42,765,712	21,922,741	20,842,971	
合計	106,662,320	113,799,273	△ 7,136,953	

2. 特別会計

(1) 2022年度将来事業特別会計

科目	2022年度予算	2021年度予算	差異	備考
前年度繰越金	11,260,006	10,259,915	1,000,091	
繰入金	1,000,000	1,000,000	0	
利息収益	200	0	200	
合計	12,260,206	11,259,915	1,000,291	

(2) 2022年度維持管理特別会計

科目	2022年度予算	2021年度予算	差異	備考
前年度繰越金	11,062,672	10,047,004	1,015,668	
繰入金	0	1,000,000	△ 1,000,000	
利息収益	16,000	16,000	0	
合計	11,078,672	11,063,004	15,668	

理事会報告

第1回定例理事会

【日 時】2022年6月2日（木）15時00分～16時40分（Web会議）

【報告事項（1）】

1. 役員候補者選出選挙について

田中美恵子選挙管理委員会委員長より、(資料1-1)2022年役員候補者選出選挙に基づき選挙人・被選挙人の登録状況、投票結果、投票状況等の報告があった。次に(資料1-2)2022年度理事・監事候補者一覧(役員候補者名簿)に基づき役員候補者及び補欠監事候補者と理事次点者の報告があった。

【審議事項】

1. 選出された新役員候補者及び指名理事について

選出された役員候補者及び補欠監事候補者と理事次点者を確認した。また、指名理事候補者については、次期理事会は新しい理事が多いことから現業務執行理事の長澤正志理事(淑徳大学)と三国久美理事(北海道医療大学)に引き続きお願いすることとした。以上をもって役員候補者選任案として定時社員総会に提出し承認を得ることとした。

2. 2022年度社員総会について

三国久美理事より、(資料3-1)定時社員総会までのスケジュール(案)に基づき説明があった。今後のスケジュールは、定時社員総会議事事項に関する説明会を7月8日(金)にWebで開催し、定時社員総会は、7月30日(土)に会長と理事・監事の出席で開催することとした。次に(資料3-2)2022年度定時社員総会議事次第(案)に基づき説明があり、定時社員総会の審議事項と報告事項は承認された。

3. 2021年度事業活動報告について

(資料4)2021年度事業活動報告書・会計内訳に基づき前回理事会(3月30日)より追加のある委員会から以下のとおり報告があった。

・大学教育委員会

波川京子理事より、シミュレーション教育教材のDVDを会員校へ送った旨の報告があった。

・研究活動委員会

秋元典子理事より、第2回研究セミナーについて、アンケート結果の報告と動画配信が5月22日に終了し、視聴数は342回であった旨の報告があった。

・国際交流委員会

堀内成子理事より、2022年度の研修会のメインテーマについて、委員会で再考した結果、「ダイバーシティの視点に立った教育(日本・海外の実践例を学ぶ)」に決定したと説明があった。また講師は宝塚大学の日高庸晴先生、順天堂大学の藤倉ひとみ先生、文京学院大学の甲斐田きよみ先生に決定した旨の報告があった。

・広報委員会

三国久美理事より、ホームページのトップページにあるメインビジュアルの動画を会員校が学生募集、広報活動等に活用できるよう提供した旨の報告があった。

4. 2021 年度決算（案）について

長澤正志理事より、(資料 5-1) 2021 年度決算書（案）に基づき説明があった。次に(資料 5-2) 2021 年度財務諸表一式に基づき説明があり、正味財産増減計算書の期末残高は前年度比 2,901,057 円増加したと説明があり、2021 年度決算は承認された。

5. 監事監査について

井部俊子監事より、(資料 6) 監事監査報告書に基づき説明があった。

6. 2022 年度重点事業（案）について

河口てる子会長より、(資料 7) 2022 年度重点事業（案）に基づき説明があった。以前より検討されている地区活動については、現行の選挙区による分け方では大きすぎるため次期理事会で検討することとなった。また、短期大学における看護学教育は私立が全て担っており、これまで日本私立看護系大学協会内の短期大学部門として活動していたが、私立看護系短期大学独自の活動が明確になるような正式名称などについて検討することとなった。

7. 2022 年度事業活動計画（案）について

(資料 8-1) 2022 年度委員会等活動計画一覧（案）を確認し、(資料 8-2) 2022 年度事業活動計画書・予算（案）に基づき説明があり各委員会の事業活動計画と予算は承認された。

8. 2022 年度予算（案）について

長澤正志理事より、(資料 9) 2022 年度予算（案）に基づき説明があった。シミュレーション教育教材については、2 年後を目途に災害看護、国際看護を加えてリニューアルを検討することとなった。

9. 2022 年度新規会員校について

山本あい子理事より、(資料 10) 2022 年度新規会員校一覧（案）に基づき説明があり、大阪信愛学院大学看護学部看護学科、金城学院大学看護学部看護学科、宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科、令和健康科学大学看護学部看護学科の入会が承認された。

10. 規程の改正について

三国久美理事より、(資料 11) 事業活動会計取扱い規程新旧対照表（案）に基づき説明があった。別表 2 に記載のある「会員校本務教職員」について質問があり、長澤正志理事より「本務教職員とは専任教職員及び週 5 日以上出勤する有期雇用の教職員」と説明があり、別表 2 に説明を加えることになった。

【報告事項 (2)】

1. 内部監査について

長澤正志理事より、(資料 12) 内部監査報告書に基づき報告があった。

2. 若手研究者研究助成の研究期間延長について

秋元典子理事より、(資料 13) 若手研究者研究助成研究期間延長届に基づき研究期間延長を認めたことの報告があった。

第 2 回定例理事会

【日 時】2022 年 7 月 30 日（土）11 時 30 分～13 時 00 分（Web 会議）

代表理事の選定について

本日、定時社員総会の終結時をもって役員全員が退任し、新役員全員が就任した。

2022年度新会長の選定は、定款第25条第5項に基づき、島袋香子氏を代表理事として選定することについて提案があり、出席した理事の全員一致をもって承認可決され、島袋香子理事はその就任を承諾した。

【審議事項】

1. 2022年度日本私立看護系大学協会組織について

(資料1-1)理事・監事一覧、(資料1-2)執行部および委員会一覧(案)に基づき審議され、副会長は河口てる子理事、坂本真理子理事、業務執行理事2名のうち財務担当理事は長澤正志理事、業務担当理事は三国久美理事となった。各委員会については、担当理事と委員長を決定した。

2. 2022年度研究助成事業採択者について

坂本真理子理事より(資料2-1)研究助成選考基準、(資料2-2)研究助成応募者・採択者・評点一覧に基づき選考基準と選考の経緯、今年度の募集状況について説明があった。次に、(資料2-3)2022年度研究助成選考一覧・採択者一覧(案)に基づき説明があり、看護学研究奨励賞13名、若手研究者研究助成10名、国際学会発表助成1名を採択することが承認された。

3. 地区活動について

河口てる子理事より、(資料3-1)都道府県別会員校数、(資料3-2)地区活動地区(案)に基づき地区活動を行うにあたって、選挙区を適切に分割し一つの地区単位とする案が提示され、諸々については今後、渉外委員会で審議を進めていく予定であると説明があった。

【報告事項】

1. 選挙制度への変革から経緯について

島袋香子理事より、(資料4)選挙制度への変革から経緯に基づき説明があった。

2. 一般財団法人日本看護学教育評価機構の協力の経緯について

島袋香子理事より、(資料5)一般財団法人日本看護学教育評価機構の協力の経緯に基づき説明があった。日本看護学教育評価機構、日本私立看護系大学協会の双方で看護学教育の質保証という共通目的を持ち、今後も支援策を検討していくこととした。

3. 2022年度スケジュールについて

各委員会の開催する研修会の日時について確認し、理事会は11月と3月に開催予定であると説明があった。

第3回定例理事会

【日時】2022年11月27日(日)14時00分～16時00分(Web会議)

【審議事項】

1. 入会と賛助会員について

- (1) 国際医療福祉大学(保健医療学部、小田原保健医療学部)の入会を承認した。
- (2) 株式会社Edu Careの賛助会員への申し出について承認しないこととした。

2. 地区活動について

地区活動について、各県の現状の情報交換する場を設ける案が示され、各選挙区の理事による情報交換会を開催することとした。

3. 研究助成事業について

- (1) 研究助成事業の各賞の英文名について、看護学研究奨励賞は「JSPCUN Research Grants, Nursing Science Research Award」、若手研究者研究助成は、「JSPCUN Research Grants, Research Grant for Young Researchers」、国際学会発表助成は「JSPCUN Research Grants, International Conference Presentation Grant」と定めることとした。
- (2) 研究助成事業規程等の改正について
 - ①研究助成事業規程について、研究助成事業の各賞の名称が規程に明記されていないため、英文名を含めて新しく第2条（名称）を新設し、第3条（事業）にも各賞の名称を記載する変更が承認された。第5条（選考委員会）については、次回理事会において継続審議することとした。
 - ②研究助成事業規程施行細則について、第8条（報告）の国際学会発表助成は、一部文言を変更することとして承認された。
 - ③2023年度研究助成募集要項、応募書類について、募集要項の国際学会発表助成の報告については、研究助成事業規程施行細則と表現を合わせることに承認された。
4. 大学運営・経営委員会より、実態調査データベース化の目的・活用方法、データについて2点の修正案が提示され、承認された。JANPUとの合同会議に本協会の意見として述べることにした。
5. 広報委員会より、ホームページについてのアンケート実施と会報のカラー印刷について、2023年度よりフルカラーにする提案があり承認された。
6. 短期大学で要望書を提出する際の名称について、本協会が四年制大学と短期大学で組織されていることを踏まえ今後は短期大学部門の名称は使わず、本協会の会員校が四年制大学と短期大学であることを周知することとした。

【報告事項】

1. 各委員会事業活動報告及び会計内訳

(1) 大学教育委員会

8月14日に開催された新任教員向け研修会は、当日参加者125名でそのうちグループワークの参加者は42名であり、11月22日時点でオンデマンドの視聴回数は97回であった。講演についてのアンケートでは99%満足との評価を得ている。委員会は2回開催し、「1月開催の研修会」について、大学入学までに学習している数理・データサイエンス・AI教育の内容を知ることが目的とし、「高等学校における数理・データサイエンス・AI教育の現状」をテーマに開催することを決定したとの報告があった。

(2) 研究活動委員会

2022年度研究助成事業について、7月10日に研究助成選考委員会を開催し、第2回定例理事会で採択者の決定後、助成金を執行した。また、9月17日に開催した第1回研究セミナーの当日参加者は139名であり、11月22日時点でオンデマンドの視聴回数は82回であった。当日参加者からは99%満足との評価を得た。9月15日に委員会を開催し、規程等の改正、選考委員の選出について検討したと報告があった。

(3) 国際交流委員会

11月5日に開催した研修会の当日参加者は40名であり、11月22日時点でオンデマンドの視聴回数は117回であった。アンケート結果は、3つの講演に対して参加者から「大変役に立った」「役に立った」との評価を95%得た。10月3日に委員会を開催したと報告があった。

(4) 大学運営・経営委員会

10月24日に開催した研修会の当日参加者は138名であり、オンデマンドの視聴回数は大河原氏120回（10月27日のみ）、本間氏187回（11月22日時点）であった。当日参加者からは90%以上の高評価を得ている。委員会は2回開催し、看護系大学に関する実態調査について日本看護系大学協議会との合同会議を2回開催したと報告があった。

(5) 渉外委員会

10月23日に委員会を開催し、地区活動について審議した。8月19日に開催された高等教育行政対策委員会に島袋香子会長が出席し、10月7日に開催されたAPN グランドデザイン委員会に坂本真理子理事が出席した。また、8月26日に2022年度自民党厚生労働部会看護問題小委員会へ、看護の問題について要望提案し、看護政策の実現に向けて、本協会として要望書を提出した。関係諸団体と連携・支援に向けた働きかけをしていくため、11月29日に島袋香子会長が日本私立学校振興・共済事業団、日本私立大学協会、日本私立大学連盟、日本私立短期大学協会へ往訪する予定であると報告があった。

(6) 広報委員会

会報第47号、第48号を発行した。委員会は3回開催したとの報告があった。会報は会員校に手許に置いていただける貴重な媒体であるため、会報第49号よりフルカラー印刷で準備を始める。ホームページは刷新して2年経過したので閲覧者のニーズを把握し改善に努めると報告があった。

2. 中期決算

収入は104,996千円、執行率98%（前年度112,974千円、執行率99%）である。事業費支出は前年度と比較すると執行率は低いが、前年度は事務所移転があったためであり今年度は適切な執行率と考える。事業費の執行率は、一般社団法人としての存在意義に関わる場所であり、適正な予算編成をして執行していく必要があると説明があった。

3. その他

令和4年秋の叙勲において、近藤潤子名誉会長が旭日中綬章を受章されたと報告があった。

第4回定例理事会

【日 時】2023年3月31日（金）13時00分～15時00分（Web会議）

【審議事項】

1. 地区活動について

県、地域単位の活動状況は様々であり、引き続き新たな活動の在り方を探ることとした。

2. 2023年度特別事業について

私立看護系大学の地区における協働を進め、看護学教育の発展に寄与する新たな活動の在り方を探索することを目的とし、近隣の大学間で共に活動を行う事業を支援する案が示され承認された。初年度はトライアル事業として企画案を公募し、執行部で審査することとした。大学間で連

携をとり、本協会から助成を行うモデル事業を実施する。

3. 2023 年度事業活動計画と予算について

大学教育委員会、研究活動委員会、国際交流委員会、大学運営・経営委員会、渉外委員会、広報委員会より 2023 年度事業活動計画と予算について説明があった。次回理事会において正式決定することとなった。

4. 2023 年度予算について

2022 年度の予算執行状況から見えてきた課題として、本協会の活動の在り方と予算の有効活用について（教員の教育力・研究力の育成、研究助成金額の増額、研究助成領域の追加、シミュレーション教育教材の開発、教育環境の整備等）について検討した。今後、活動を推進していくため、将来構想検討委員会を設けるか執行部で検討することとなった。

5. 2023 年度研究助成事業について

研究助成事業規程新旧対照表（案）の改正が承認され、2023 年度研究助成事業選考委員が承認された。

6. 規程の改正

役員候補者選出規程、選挙管理委員会規程、委員会規程、専任職員就業規則、育児・介護休業等に関する規程の改正が承認された。

7. 2023 年度定時社員総会運営方法と付帯事業（講演会）について

2023 年度定時社員総会は 2022 年度同様に、正会員が会場に参集することなく、Web による事前説明会と議決権行使書による決議とすることとし、付帯事業の講演会については執行部で検討することとなった。

【報告事項】

1. 2022 年度事業活動報告と予算執行状況について

(1) 大学教育委員会

1 月 29 日に「高等学校における数理・データサイエンス・AI 教育の現状」をテーマに研修会を開催した。2022 年度の予算執行率は 80.3%であった。

(2) 研究活動委員会

9 月 17 日に開催した第 1 回研究セミナーの当日参加者は 139 名であり、オンデマンド配信視聴数は 412 回であった。2023 年 2 月 25 日に開催した第 2 回研究セミナーの当日参加者は 79 名であり、オンデマンド配信視聴数は 3 月 22 日時点で 410 回であった。論文投稿までの道筋と増澤先生ご自身の体験を踏まえながらの講演であり、とても好評であった。2022 年度の予算執行率は 91%であった。

(3) 国際交流委員会

11 月 5 日に開催した研修会の当日参加者は 40 名であり、オンデマンド配信視聴数は 205 回であった。アンケートでは「大いに役立った」と回答した方が多く、継続的にこのような講演をしていただきたいとの声があった。2022 年度の予算執行率は 80%であった。

(4) 大学運営・経営委員会

10 月 24 日に「学校法人のガバナンス改革とこれからの私立大学の経営戦略」をテーマに研修会を開催した。当日参加者は 138 名であり、アンケート結果では概ね満足のいただける内容

であった。また、日本看護系大学協議会と合同で行っている教育等に関する実態調査について、集計分析が終わり報告書はほぼできていると報告があった。2022年度の予算執行率は92.8%であった。

(5) 渉外委員会

自民党と厚生労働省に要望書を提出した。日本看護系大学協議会との連携について、高等教育行政対策委員会と APN グランドデザイン委員会に参加している。また、関係諸団体に会長と事務局長で挨拶に行き、意見交換を行った。概ね看護系の大学に対して理解を示していただいた状況であると報告があった。2022年度の予算執行率は30%であった。

(6) 広報委員会

会報第47号を5月に発刊し、第48号を11月に発行した。ホームページを見やすくするため3ヶ月に1回会議を開催し、業者と共に分析を重ねている。2022年度の予算執行率は89.7%であった。

2. 2022年度決算（3月16時点）について

支出の事業費は執行率が72%（昨年度79%）であった。各委員会の事業活動については、各委員会で計画的に執行しており、ほとんどの委員会が執行率80%以上となっている。管理費の執行率は85%（昨年度89%）であり、適切な執行であった。

3. 若手研究者研究助成研究期間の延長および中断について

出産、育児に伴う休業による研究期間延長の依頼があり、1年間の延長を認めたと報告があった。また、本協会会員校ではない大学へ異動される方については研究助成の中断で対応することとなったと報告があった。

4. 2022年度会長表彰について

会員校203校のうち、完成年度を迎えている193校中188校から推薦があった。実施率は97.4%であった。

会長表彰について

完成年度を迎えている会員校より、各校1名の推薦を受け、優れた業績をおさめた188名の卒業生へ、表彰状と記念品を贈呈しました（対象校193校のうち188校より推薦がありました）。

（表彰状）



（記念品）



Ⅱ 2022年度 事業活動報告

1. 大学教育委員会

1. 趣旨

- ①教育内容（カリキュラム）、方法、評価の調査研究
- ②教員組織、教員の質・能力向上、教育能力・施設設備の調査研究
- ③教育に関するセミナー、ワークショップ等の実施
- ④上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 赤澤 千春（大阪医科薬科大学）
- 江川 隆子（関西看護医療大学）
- 日高 艶子（聖マリア学院大学）
- 三国 久美（北海道医療大学）

3. 2022年度事業活動報告

1) 研修会の開催

〈研修会1〉 新任教員向け研修会「大学教育とは」

目的：大学教員として基本的知っておかなくてはならない考え方や、カリキュラムについて学ぶ

講師：島袋 香子 氏（北里大学）、春山 早苗 氏（自治医科大学）

日時：2022年8月14日（日）10時00分～15時00分

開催方法：Zoom ウェビナーを用いたライブ開催と3か月間のオンデマンド配信

プログラム：

- 10：00～10：10 開会挨拶・会長挨拶
- 10：10～10：55 講演1「私立看護系大学を理解する」
- 10：55～11：40 講演2「建学の精神と一貫した教育・研究・地域貢献などを行う必要性について」
- 11：40～12：00 質疑応答
- 12：00～13：00 休憩
- 13：00～14：00 グループワーク
- 14：00～14：55 発表・質疑応答
- 14：55～15：00 閉会挨拶

当日参加者：講演125名、グループワーク42名

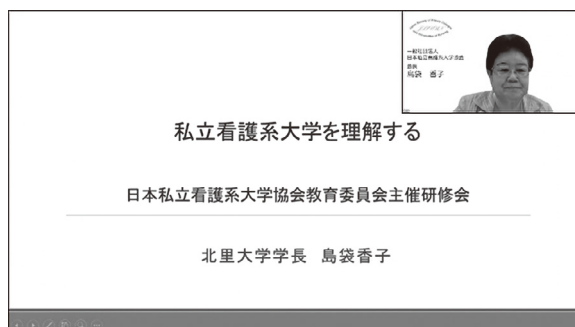
動画配信期間：2022年9月1日～12月1日

動画視聴回数：598回

○島袋香子先生の「私立看護系大学を理解する」では私立大学は学校法人が経営する大学であり、様々な法律があり、主に教育に関する法律と運営に関する法律の2つについて講演された。

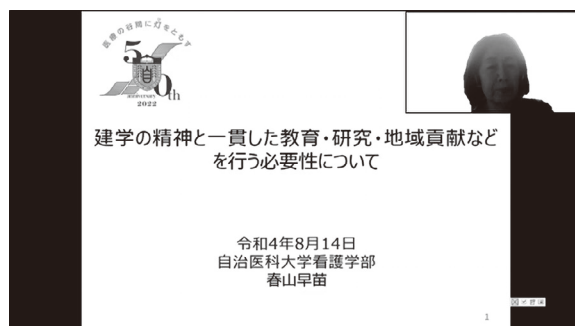
講演についての感想（アンケート結果要約）は当日参加者の満足度は大変満足33%、満足66%、やや満足1%、不満足0%であった。大学と教育に関する法律、大学運営と教育について

での理解が深まったという意見が多くあり、教員の責務と役割を再認識し教育に対する意欲を新たにした参加者も多かった。また私立大学の組織運営について初めて知った参加者も散見された。



○春山早苗先生の「建学の精神と一貫した教育・研究・地域貢献などを行う必要性について」では看護系大学が増え、大学を設置する際に文部科学省から、なぜその地域にその大学が必要か問われており、私立大学においては各大学の特徴を示すことが求められていることから、自治医科大学を例に講演された。

講演についての感想（アンケート結果要約）は当日参加者の満足度は大変満足 31%、満足 61%、やや満足 8%、不満足 0%であった。「地域貢献」「建学の精神」「教育の理念」「教育目標の一貫性」についての感想が多かった。また、自治医科大学の好事例に対する感想、自己を振り返る機会になったとの感想もあった。



○グループワークでは「私立大学とは、大学における看護教育とは」をテーマとし、午前中のお二人の先生のご講演を受け、学んだことや気づいたことなどについて意見交換をした。参加の理由として、他大学の方との情報共有や意見を伺いたいという意見が多くあり、悩みや課題を共有したいという意見が目立った。

〈研修会2〉高等学校における数理・データサイエンス・AI教育の現状

目的：大学入学までに学習している数理・データサイエンス・AI教育の内容を知ること

講師：藤岡 健史 氏（京都市立堀川高等学校 教諭・情報科主任）

日時：2023年1月29日（日）10：30～12：00

開催方法：Zoom ウェビナーを用いたライブ開催と3か月間のオンデマンド配信

プログラム：

10：30～10：40 開会挨拶・会長挨拶

10：40～11：40 講演「高等学校における数理・データサイエンス・AI教育の現状」

11:40～11:55 質疑応答

11:55～12:00 閉会挨拶

当日参加者：26名

動画配信期間：2023年2月13日～5月13日

動画視聴回数：282回

○藤岡健史先生より「新しい高等学校学習指導要領について」「情報Ⅰ（Ⅱ）の教科書概観について」「大学入学共通テスト「情報」試作問題について」「高校現場での実践報告（堀川高校の例）」について講演された。「情報」に関する学習指導は大きく変わってきており、高校卒業時に身につけている問題解決力や思考力・判断力について詳細な説明があった。



○受講後の感想では「大変満足」「満足」との回答が100%となっており、企画についても「大変役に立った」「役に立った」の回答が100%となった。意見や感想をまとめると「高校卒業時の情報教育のレベルが高く、大学側もそのレディネスを想定したカリキュラム内容を考えていく必要がある」という内容であった。

2) 委員会の開催

第1回大学教育委員会

日時：8月4日（木）16時30分～18時00分

方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：（前理事）片田範子、佐藤みつ子、中嶋恵美子、波川京子

（現理事）赤澤千春、日高艶子、三国久美（五十音順、敬称略）

議題：1) 引継ぎ

2) 研修会について

3) その他

第2回大学教育委員会

日時：9月15日（木）16時30分～17時00分

方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：赤澤千春、江川隆子、日高艶子、三国久美（五十音順、敬称略）

議題：1) 新任教員向け研修会「大学教育とは」の振り返り

2) 「1月開催の研修会」について

メール審議（11月15日～18日）

「1月開催の研修会」について、大学入学までに学習している数理・データサイエンス・AI教育の内容を知ることを目的とし、「高等学校における数理・データサイエンス・AI教育の現状」をテーマに開催することを決定した。講師は京都市立堀川高等学校情報科目の教諭で高大接続や大学初年度教育等に詳しい藤岡健史氏に依頼することとなり内諾を得た。開催日は2023年1月29日（日）10時30分から12時とする。

第3回大学教育委員会

日時：2023年2月19日（日）10時00分～11時00分

方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：赤澤千春、江川隆子、日高艶子、三国久美（五十音順、敬称略）

4. 今後の課題

看護教育を取り巻く環境は社会の変化とともに2つの課題をもたらしている。一つは国の中等教育の変革に伴って、大学に入学して来る学生のレディネスの変化と、それに伴い高等教育に求められる変化である。これらの課題に対して、現状を知り、それをふまえた大学教育の成果や課題について会員校と共有する機会を設けることが必要である。それらの観点から会員校のニーズを把握しつつ、次年度の事業活動計画を策定する。

一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
 新任教員向け研修会「大学教育とは」講演 アンケート結果
 当日参加者：125名、動画視聴回数：598回
 アンケート回答者：114名

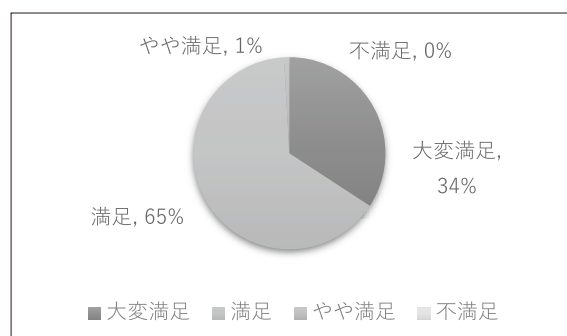
Zoom を用いたライブ配信
 開催日：2022年8月14日（日）
 動画配信期間：9月1日～12月1日

1. 講演「私立看護系大学を理解する」

講師：島袋 香子 氏（北里大学 学長）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	39人	34%
満足	74人	65%
やや満足	1人	1%
不満足	0人	0%
合計	114人	100%



2) ご意見、感想など

- ・大変わかりやすく、端的に要点がまとめられていて、よく理解できました。
- ・法律など改めて確認できてよかったです。
- ・大学教育について深まりました。
- ・今後の教育活動に示唆を得ることができた。
- ・知らなかったことが多く勉強不足を再認識しました。
- ・教育基本法など大学に関する法律について学ぶことができました。
- ・法律から改めて考えさせられました。また、本学の理念をいつも念頭におきながら教育を進めていきたいと思えます。
- ・基本的な事項をご提示いただき、分かりやすいお話でした。
- ・大変勉強になりました。教育の基盤となる法律について勉強した上で教育・指導していく必要があるということを改めて感じることができました。
- ・自学では法律について詳しく学ぶことがなかったので大変参考になりました。
- ・学生1人1人が何を学ぼうと思っているのか、今後どうしたいのか学生の思いを引き出すことができる関わりを教員として出来るよう研鑽を積んでいきたいと感じた。
- ・このような内容のお話を聞く機会はなかなかありませんでしたので、大学教員としての在り方、大学教育についてどのような建付けでつくられているか、整理することができました。また、看護学を学ぶことの魅力を自ら示していくことの重要性をあらためて学ぶことができました。
- ・教育をしていく立場として、教育に関連した法律が何を求めているのかを知ることができました。
- ・教員として知っておくべき、基本的なことを教授いただきました。
- ・各私学の方針に沿った教育方針作成の決定について再確認できた。
- ・教育者としておさえておくべき点が分かりました。
- ・4月に教員になったばかりであり、大学組織運営のことだけでなく私立大学の理解すら出来ていなかったことに気が付いた。こういった講義を入職時にして頂けるといいなと感じた。

- ・自分自身が公立大学の出身であり、また、大学教員1年目の為、わからないまま半年が経過しておりました。私立大学の組織について、運営について一から学ぶことができました。どのように教育や研究に関わり、それが大学運営に繋がることを知る事が出来ました。
- ・教育の法に関して、またどこに視点を置くべきかの根拠の理解に繋がった。
- ・法律による私立大学の位置づけを理解することができた。
- ・島袋先生のお話が大変印象に残りました。現所属先では教育の質について、教員間で意見交換することもなく、ただこなしているだけで、どこに向かっているのか分からなくなることがよくあります。こういうお考えをもつ上司の元であれば、大変なことも頑張れそうだと思います。新人だけではなく、どの職位の教員であっても教育の基本を理解し、より質の高い看護教育を目指すことができれば良いと思います。組織内の教員の教育にも、多面的評価がされるとよいのと思います。
- ・教育基本法などに立ち返ってわかりやすく解説いただいたことについて、とても勉強になりました。
- ・大学の在り方や教育の質の向上を別々で捉えていたことがつながって理解できました。
- ・私立看護系大学の立ち位置や求められる役割を理解できた。
- ・入職時には聞くことができない内容を聞くことができ、大学の理念や基本方針等を理解する必要性について学ぶことができた。
- ・助手として今年着任したばかりです。基本的な教育の法律から、大学の構成に関して学ぶことができた。
- ・臨床が長く、教員になってなかなかこのような内容について聞く場が無かったので聞いて良かったです。
- ・大学を運営するための法律や資金などについて理解することができました。入職したばかりで自組織の仕組みがわかっていないのですが、組織としての運営方法などこれから考えて行きたいと思いました。
- ・講演を聞き、自大学の取り組みや講義、会議などが様々な法律や規則に則って計画・実施されていることを改めて学びました。学生個人の価値を尊重し、能力を伸ばすための関わり方について考えさせられました。
- ・基本的な法律から整理して学習することができました。
- ・私立の看護大学は、教育法等さまざまな法律にて基づいて、3Pを基盤とした、学校運営がなされているということがわかりました。
- ・改めて法律を確認する機会となりました。第2条「教育の目標」は表現上はその通りだと思いますが、実際に行い、その成果を確認するのは難しいと思いました。そこで、ポートフォリオなどが導入されているのだと思いますが、学生が率直に意見を言うことのできる教育的関係性の構築が前提であり、成長を肯定的に評価する教員の態度が「この尊重」につながるのかと思いました。
- ・基本を確認できました。
- ・私立看護系大学としての役割を理解できました。
- ・基本的な内容であるとともに、目の前の業務に追われ忘れがちな内容を改めて確認できました。
- ・詳しい法律など知らなかったので、今回知ることができてよかった。
- ・私学大学の教員として、教育、研究、地域貢献について自己研鑽していきたいと思いました。
- ・大学独自のFD研修会の開催企画も難しい中、このような土台となる内容を毎年入職する新任教員が学べるe-learningがあればと思います。あるいは、毎年4月にこのような研修会を企画して頂けると大変助かります。
- ・国立から私立大学に着任しました。設置母体、組織、運営、教育理念等、改めて学ぶことが多くあり、大変、勉強になりました。
- ・公立大学からの転職しましたので、私立学校法や私立学校振興助成法について理解を深めることができました。

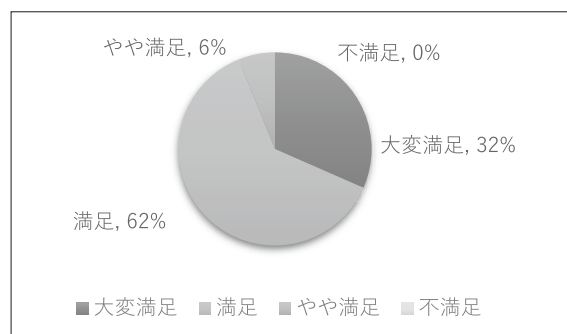
- ・私立看護系大学の教員として振り返るきっかけになった。
- ・大学教育の基本的なことが理解できました。魅力ある看護について考えていきたいと思いました。
- ・非常に重要なことを分かりやすく説明いただき、理解しやすかったです。

2. 講演「建学の精神と一貫した教育・研究・地域貢献などを行う必要性について」

講師：春山 早苗 氏（自治医科大学 看護学部 学部長）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	36 人	32%
満足	71 人	62%
やや満足	7 人	6%
不満足	0 人	0%
合計	114 人	100%



2) ご意見、感想など

- ・地域貢献のあり方を確認できました。
- ・わかりやすく、とてもためになった。
- ・自分の大学について確認してから参加すればよかったですと思いました。
- ・具体的な例を挙げてくださったので地域貢献についての大学の役割についてよくわかりました。
- ・自治医科大学のことが良くわかる内容でした。
- ・建学の精神がいかに大切か、実践例をご提示いただき、理解が進みました。
- ・建学の理念から教育・研究・地域貢献に一貫性を持たせる必要性について聞くことができたのはよかったです。ただ、今回は先生が所属されている大学の例をもとに話されていたので、もう少し一般的な内容で聞けるとよかったかなと思いました。
- ・建学の精神や学校の理念を教育・研究・地域貢献と連動させる大切さを学ぶことができました。
- ・大学教員でありながら地域貢献については意識を向けられていなかった為、今後は教育だけでなく研究や地域貢献という視点も持ちながら何ができるのか考えていきたい。
- ・研究等においても、建学の精神に基づいた研究が行われることの重要性を理解することができました。
- ・内容が少し難しかったです。
- ・建学の精神のもと、1人1人の教員が主体的に教育、研究、地域貢献を行う必要性を理解できました。私立大学は、特にですね。
- ・他学の状況が具体的に知ることができた。
- ・自分は何をしていかなければならないのか、何ができるのかを考える機会になりました。
- ・自治医科大学を例に話をして頂き分かりやすかった。へき地の生活と看護についての内容をもう少し聞きたかった。
- ・建学の精神から、へき地医療・看護の研究の関連、地域貢献のあり方について具体例を知ることが出来ました。
- ・大学の目指すところと、それを教育－研究－地域貢献に繋げる考え方、具体的な取り組みについて紹介していただき、自身の所属大学の建学の精神について振り返り、今後に繋げていきたいと思いました。
- ・自治医科大学の取り組みについて、よく理解できました、地域・社会貢献については、現所属先

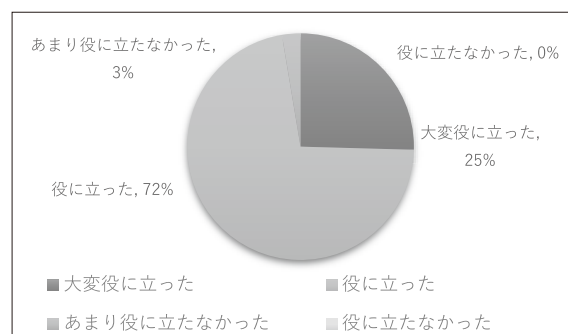
では組織としても努力が足りていないことを痛感しました。

- ・建学の精神のもと教育・研究・地域貢献が連動することで、さらに教育の質の向上に繋がっていくことがわかりました。
- ・いま一度、自分の所属大学の建学の精神に対する理解を深めてみたいと感じた。
- ・自身が所属する大学以外の建学の精神やポリシーをご教授いただける機会はあまりないので、大変勉強になりました。建学の精神に立ち返って考えるという一貫した姿勢を持つことで、大学の在り方の再確認となると感じました。
- ・現在所属している大学のことしか知らないなので、他の大学の現状がわかって参考になりました。
- ・具体的なお話だったので、とても理解がしやすかったです。一貫した教育ができるようなカリキュラムの必要性と、それを実現するための社会との共同を実感できました。
- ・全内容が明確で理解しやすかった。
- ・自大学のシラバスに記載されている建学の精神、教育の理念、教育目標と、先生の講義内容を照らし合わせて、新任教員の自分には何ができるのか考えながら講義を拝聴しました。教育と研究をリンクさせ、建学の精神に沿って貢献するということを実践していきたいと思いました。
- ・自治医科大学看護学部でのご講演内容を聞いて、具体的に理解することができました。教育、研究、地域貢献を丁寧にするなどが魅力ある教員や魅力ある大学のためにも必要であることがわかりました。
- ・教育、研究、地域貢献について、それぞれが相互に作用し、質が高まっていくということがわかりました。
- ・自治医大の地域連携教育のお話を大変興味深くお聞きしました。建学の精神に賛同し、積極的に学びを求める学生が一定数いることはとても素晴らしいと思いました。またそうした学生の様子を見て刺激を受け、自らの学びを再構築する学生が続いていくこともとてもよい循環だと思いました。また、「押しつけ」にならない教育的環境作りは難しいと思いました。私自身も学生のことはいろいろなところへ出向き、教科書にないことをたくさん学びました。教員になっても、大学組織の一員としての地域貢献からは多くを学ばせていただいておりますし、地域の方々との関わりに励まされることもあります。春山先生ご自身も地域での学びに参画され、楽しまれておられるのかとお察しました。教員も学生も一緒に参加しそれぞれに楽しみ成長できるカリキュラムが増えるとよいと思います。
- ・地域貢献について、地域貢献をしたいと思っていても、どのように始めたらよいか、どういうところにアプローチしたらよいか、具体的にどうしたらよいか困っています。どういうところから始またらよいかなど、今後新任教員向けにさらにご教授いただけましたらと思いました。
- ・大学の建学の精神を具現化することが大事なミッションだと再確認しました。
- ・とても分かりやすい内容で理解できました。
- ・自身の日頃の活動を整理する視点を得られたと思います。
- ・自分が地域に貢献できることは何か、を考えたい
- ・へき地看護についての取り組み大変興味深く聞かせていただきました。
- ・新任にかかわらず、3つの役割をバランスよく実践できる教員が少ない。求められる教員像や助教FDなど、今後の教員教育に参考になりました。
- ・地方における大学の地域貢献の考え方、教育、研究とのつなぎ方等について、1大学の取り組みではありましたが、大変なご苦労の中で、学部全体としてのまとめりと個々の教員の責任の強さが感じられ、大変、感銘を受けました。
- ・自治医科大学の建学の精神からの教育・研究・地域貢献について、具体的に知ることができました。特に、地域貢献の取り組みに関しては、自治医科大学の建学精神そのものであり、本学においても、今後どのように取り組んでいくのか、学科会議等で討論する場を提案していきたいと思いました。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	29人	25%
役に立った	82人	72%
あまり役に立たなかった	3人	3%
役に立たなかった	0人	0%
合計	114人	100%



2) ご意見、感想など

- ・連休中でしたので、別時期の方が参加しやすかったと考えます。
 - ・学校運営など、教員としても見えにくいですが大切な事項の理解が進みました。
 - ・学生の自主性、自立性を養うために必要な教育技法とは何か、これから考えていきたいと思いません。
 - ・教員の在り方についての基礎を理解することが出来た。
 - ・大学教員としての在り方ということについては、実際のところはあまり学ぶ機会はないのかもしれませんが。
 - ・全体的に難しかったです。
 - ・質疑応答に多く答えていただき、それぞれの先生方が非常にすばらしいお考えをお持ちで、私もこのような教員になりたいと思いました。
 - ・各大学の特殊性の発表の場としては興味を持てたが、所属施設にどのように反映できるのか難しかった。
 - ・自学にでは教育法についてや学校教育施行規則について、新任教員に対しての説明がないまま進んでいってしまっているため、こういった機会に参加出来て本当に良かったです。
 - ・教員をサポートする内容を今後も続けてほしい。
 - ・私立大学の教員として研究・教育・地域貢献が必要なことを理解できました。
 - ・定期的に勉強をしたいので、こういう研修はありがたいです。
 - ・新任で教育に関する知識の浅い立場としては、分かりやすい内容で良かったです。
 - ・他大学の運営や方針などを通して大学教育について考えることができました。
 - ・教員3年目です。私の勤務する地域は私立系看護大学が約10年前に急増し、そのためか、看護大学入学は困難ではありません。その結果か、偏差値の高い学生が集まるわけではなく、高校生まで、勉強をしっかりとした機会のない学生さん達が多くいます。「考える力を養う」そこが専門学校とは異なるのはわかりますが、スタートのレベルが決して高くない学生さんに、どのように「考えて看護を行う」ことを伝えれば良いのか日々悶々としています。
- 私立大学なので、経営を考えると、定員割れは死活問題であることはわかります。しかし、学生を集める時点で、看護師になりたいという熱い熱意を持った学生さんや偏差値が専門学校より高い学生さんを集めることは難しいのでしょうか？
- 日々、学生さんと関わる上で、もう少し「考える力」を持って、看護を学んで欲しいなと思う限りです。
- ・私立大学新任教員として知っておかないといけない法律や規則、教育の責務と役割について学ぶことができました。また建学の精神とミッションを念頭に置き、教育・研究・地域等への貢献をリンクさせ実践する必要があると学びました。

- ・地域貢献について、地域貢献をしたいと思っても、どのように始めたらよいか、どういうところにアプローチしたらよいか、具体的にどうしたらよいか困っています。
- ・教員としての役割を理解できました。
- ・公立大学からの転職でしたので、とても有意義な内容でした。

4. 今後、本協会「大学教育委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・授業と研究との両立
- ・外国人留学生の支援について
- ・教育力の向上につながるテーマの研修
- ・若手？教員のネットワーク術（教員同士での悩みを共有する場があるといいと思います）
- ・大学生に対する社会人基礎力を高めるための各大学の取り組み
- ・Society 5.0 にむけた看護教員のありかた
- ・カリキュラムツリーの作成や、各単位の考え方、文科省や厚労省通達をカリキュラムに反映する際の考え方など初心者向けの解説
- ・教育評価や教育方法、学校運営
- ・新任教員向けの、学生教育技法に関する研修会
- ・多領域をまきこむ教育観の共有をどのようにしているのか
- ・各大学の個性を活かしたカリキュラムの作成
- ・学習成果の把握と可視化について、学生が魅力を感じる教育支援について
- ・新任教員のための研究や教育について
- ・大学院での研究は指導教員の基に進めていたが、教員としてどのように研究を進めていけばよいかわからない。科研費の申し込みなど、私立大学での研究の進め方についての研修を企画していただけると、参考になります。
- ・教員教育に関する内容（指導する側、される側双方のテーマで）
- ・教員の教育、教員の職務継続支援について
- ・設置基準の解説や大学評価について
- ・教員の社会力を養うためには
- ・教員と認定看護師や専門看護師、特定行為研修修了などの資格を維持する方法について
- ・大学生の教育上の留意点、看護実践能力を育成する上での重要な点について
- ・キャリアアップ計画
- ・臨地実習での現状や工夫など
- ・実習等の教育における学生さんへのアプローチの仕方
- ・研究と教育の両立（特に研究を進めていくための工夫）、自身・家族のライフイベントがある中での研究の推進の仕方について
- ・授業設計
- ・先駆的な取り組み事例の紹介 SA の活用、海外の大学との連携など
- ・学生対応について
- ・教員間、教員学生間におけるハラスメントとその対応、現代の看護学生像（コロナ禍の影響も含む）
- ・FD の企画の仕方
- ・看護師養成に関わる政策制度
- ・大学教員の研究と社会貢献との両立
- ・今回のように、具体的な大学の建学の精神等に関して、他大学の状況も知りたい

②開催方法

- ・オンライン（35件）
- ・オンデマンド配信（5件）

③開催時期

- ・平日の夜
- ・前期の早め
- ・大型連休でない土日
- ・今回と同じ時期（2件）
- ・もう少し早い時期
- ・春
- ・春休み
- ・夏休み（4件）
- ・冬休み
- ・4～6月
- ・6～7月
- ・8月中旬～9月上旬
- ・8月中旬～下旬（お盆除く）
- ・9月（2件）
- ・10～12月
- ・お盆以外（3件）
- ・お盆や年末年始以外
- ・学生の長期休暇中
- ・入職後半年頃

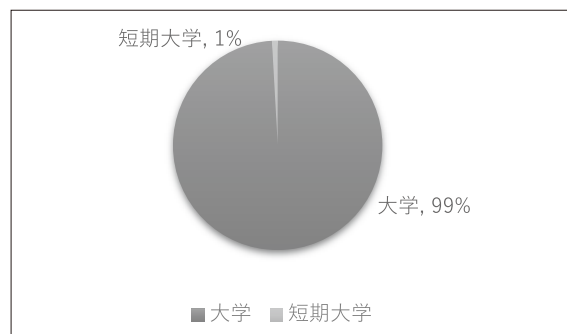
④開催場所

- ・オンライン（13件）
- ・ライブとオンデマンドのハイブリット形式
- ・コロナ禍後なら東京
- ・関東近辺
- ・コロナ感染状況にもよりますが、地方開催も考えていただきたい。

5. 参加者について

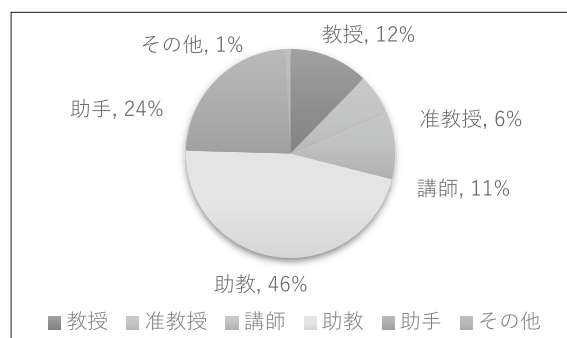
①所属

	人数	割合
大学	113 人	99%
短期大学	1 人	1%
合計	114 人	100%



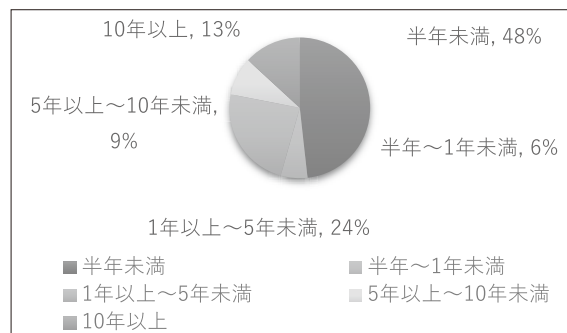
②職位

	人数	割合
教授	14 人	12%
准教授	7 人	6%
講師	12 人	11%
助教	53 人	46%
助手	27 人	24%
その他	1 人	1%
合計	114 人	99%



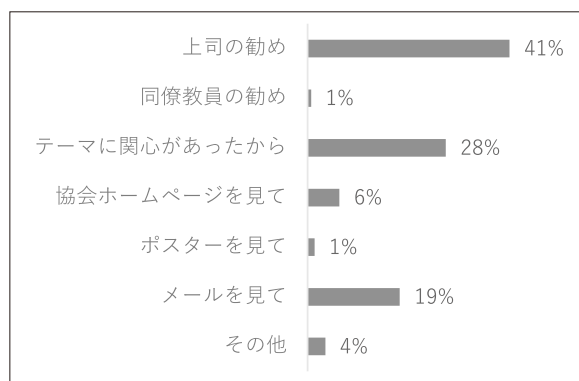
③在職期間

	人数	割合
半年未満	55 人	48%
半年～1年未満	7 人	6%
1年以上～5年未満	27 人	24%
5年以上～10年未満	10 人	9%
10年以上	15 人	13%
合計	114 人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	57 人	41%
同僚教員の勧め	1 人	1%
テーマに関心があったから	39 人	28%
協会ホームページを見て	9 人	6%
ポスターを見て	2 人	1%
メールを見て	26 人	19%
その他	5 人	4%
合計	139 人	100%



(その他の内容)
大学のFD委員会の勧め、教務委員長の勧め、学内掲示板を見て
これまでは公立大学に所属していたため、大学からアナウンスがあったから

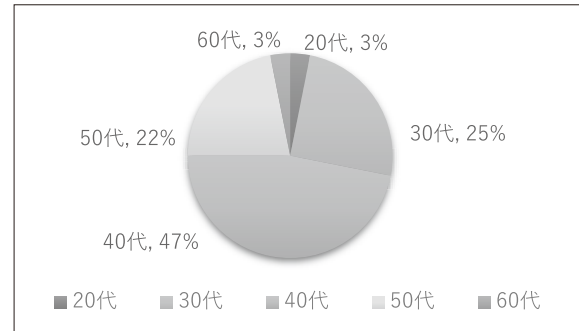
一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
 新任教員向け研修会「大学教育とは」 グループワークアンケート結果
 参加者：42名、アンケート回答者：33名

開催日：2022.8.14（日）

1. 参加者について

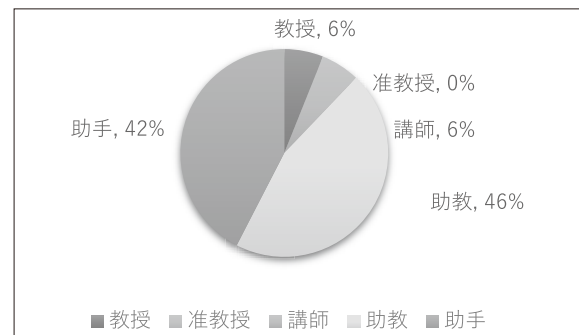
①年齢

	人数	割合
20代	1人	3%
30代	8人	25%
40代	15人	47%
50代	7人	22%
60代	1人	3%
合計	32人	100%



②職位

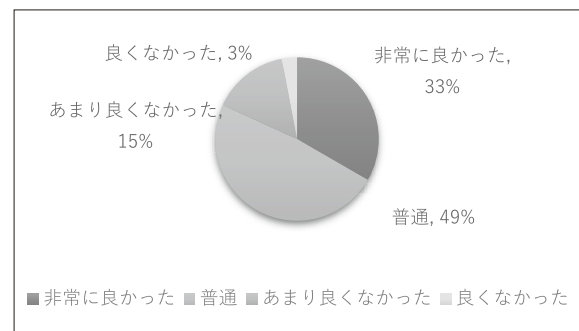
	人数	割合
教授	2人	6%
准教授	0人	0%
講師	2人	6%
助教	15人	46%
助手	14人	42%
合計	33人	100%



2. グループワークについて

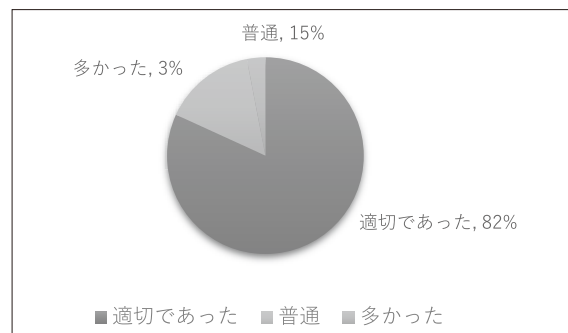
①テーマについて

	人数	割合
非常に良かった	11人	33%
普通	16人	49%
あまり良くなかった	5人	15%
良くなかった	1人	3%
合計	33人	100%



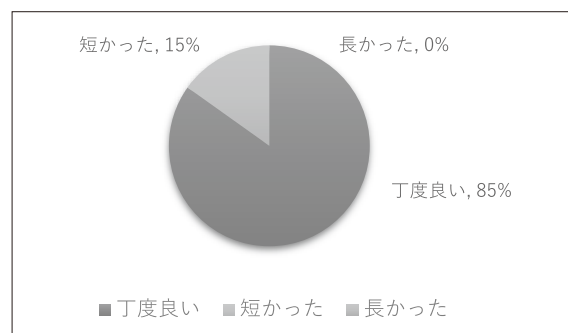
② 1 グループの人数について

	人数	割合
適切であった	27 人	82%
普通	5 人	15%
多かった	1 人	3%
合計	33 人	100%



③ グループワークの時間配分について

	人数	割合
丁度良い	28 人	85%
短かった	5 人	15%
長かった	0 人	0%
合計	33 人	100%



④ グループワークに参加した理由について

- ・他大学の教員の方とディスカッションすることで、自分の学びを深めたいと考えたため。
- ・午前中の講義から、他の先生方が抱いたお考えを共有できる場だから。
- ・他の大学の方々の意見がとても参考になると思ったため。また、参考にしたいと思ったため。
- ・様々な大学の事例や工夫を伺いたかったから。
- ・若い人の話、私学で活動する人の意見を聞きたかった。
- ・色々な人と話をして新しい意見を取り入れたい。「私はこうだったからこうなさい」「前の先生がこうだったからこうする」という人が多い。若手や教員になり立ての人たちや他大学の考えを聞きたいと考えたため。
- ・他大学の教員との学び合いがしたかったため。
- ・様々な意見を聞けると思ったから。
- ・他大学での新任教員の話聞く機会となるため。
- ・グループワークの内容はわからない状況ではあったのですが、きっとグループワークを通して、近い境遇の新任教員の方々と話しをする時間をつくれて学びが得られるのではと思ったため。
- ・多くの方々のご意見を聴くことで学びが深まると考えたため、参加しました。
- ・新任ということで、同じ状況の人と話せることが興味深かったため。
- ・他大学の教員と交流できるいい機会だと感じたため参加しました。
- ・新任教員が所属の大学にいないため、同じ立場にいる教員と話せたらいいなと思い参加をした。
- ・日々悩みながら業務に従事しておりますが、今の悩みは自分だけなのか、誰に相談したらよいかなど不安になることもあり、そういったことが少しでも解消できればと思い参加させていただきました。
- ・他大学の先生方とお話する中で学びがあるかと思ったため。
- ・他の大学の先生方と情報共有やディスカッションをすることは有意義だと考えていたから。
- ・他大学の新任教員と意見交換がしたかったため。
- ・ひとつでも多くの学びが得られるように。

- ・他大学の教員と交流が図れると思い、参加させていただきました。
- ・他大学の先生方と交流できるから。
- ・大学教育について他大学の先生と話す機会はこれまであまりなく、貴重な機会であると感じたため。
- ・他大学の先生方と情報交換がしたかったため。
- ・具体的に新任教員の方々が何を課題としておられるのか、知りたかったから。
- ・大学教育について学びを深めたいと考えたため。
- ・テーマが日頃の悩み事など同じ立場にある者同士意見交換ができるような、実習での困りごとや、教育と研究のバランスなどの内容だとよかったです。
- ・新任教員という同じ立場の方の意見を聞きたかった。

3. 今後、取り上げてほしいテーマについて

- ・実際、着任しての大学教員としての不安やリアリティショックの共有等
- ・他大学の先生と組んで研究を進めるために必要なこと
- ・学生指導について
- ・カリキュラムに関する話題
- ・進学について
- ・新任教員の悩みとその解決方法について
- ・自大学ではこのように教育について議論できる場はなく、この先のキャリアの積み方がみえていない部分もあるため、例えば、経験年数に応じたこのような場があってもよいのではと、新任の立場からは思いました。(経験を重ねた先生方の視点となると、不要になるかもしれませんが。)
- ・シミュレーション教育について
- ・講義をする上で参考になる内容
- ・今回のようなオンラインでのグループワークの機会がありましたら、話し合いの内容をグループ内で共有できるメモ機能が使えると便利ではないかと感じました。
- ・新任教員の悩みについて
- ・教育に関すること
- ・学生の指導における実践例など
- ・助手助教の授業への関わり方(授業を担当しない際の)、他領域との連携について、学生指導やサポートの在り方について(担任制やアドバイザー制など)
- ・新任大学教員として困っていることなどをピア同士で語りたい。
- ・教育と研究の両立について
- ・本テーマの次の課題として、各教員毎のPDCAの具体例について
- ・主体性を育成するための教育方法
- ・学生指導(主に実習)に関すること

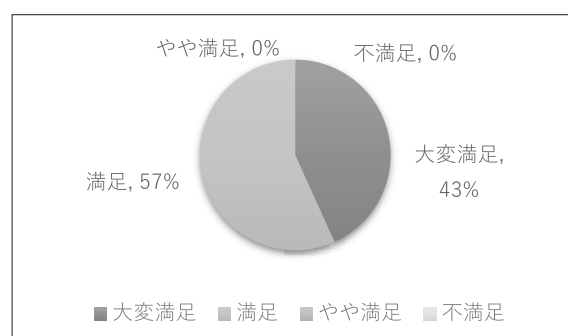
一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学教育委員会
 研修会「高等学校における数理・データサイエンス・AI教育の現状」 アンケート結果
 当日参加者：26名、動画視聴回数：282回

Zoomを用いたライブ配信
 開催日：2023年1月29日（日）
 動画配信期間：2月13日～5月13日

1. 講演「高等学校における数理・データサイエンス・AI教育の現状」
 藤岡 健史 氏（京都市立堀川高等学校 教諭・情報科主任）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	16人	43%
満足	21人	57%
やや満足	0人	0%
不満足	0人	0%
合計	37人	100%



2) ご意見、感想など

- ・高校での具体的な内容を知り、大変参考になりました。とてもわかりやすいご講義でした。
- ・新学習指導要領における「情報Ⅰ」の考え方がわかりました。
- ・知らないことが多く、大変勉強になりました。
- ・高校教育における情報教育の現状がよく分かりました。
- ・自分が高校生の時にこのような教科書で勉強したかったです。
- ・高校で学んでいる内容について知り驚いています。看護の大学でも、1年生でデータサイエンスの講義が入りますが、その後、看護領域でどのようにデータを読み、アルゴリズムを考えていくのかについて、看護教員はかなりの勉強が必要と考えました。特に研究を実施する上で用いる必要があると考え、どこかで学ぶ機会が必要と感じました。
- ・高校生がかなりレベルの高い情報教育を受けていらっしゃることを初めて知り、大変驚きました。高校により教育の内容に差異がある可能性もあるとおっしゃっていましたが、基本的に大学教員として勤務している私たちよりも、高度な情報教育を受けて、新しい学習をされて入学されることを知っておく、また高校までに学修された内容を尊重できるように教育者の方も学ばないといけないと感じました。
- ・説明がとても分かりやすく、高校（堀川高校の）の情報教育の現状が理解できたと共に、学校により教育内容にもバラツキが生じている状況も理解することができました。情報教育の現状を鑑み、高等教育の中に繋げていきたいと思いました。
- ・情報教育の修得状況については、学生個々にばらつきを感じていましたが、本日の講演を通してその現状を知ることができたと共に、本学での情報教育の専門家の意見も聞きながら見直しを図っていきたくと思った。
- ・入学以前に学生が何をどの程度学習しているのか情報をもっと得る必要があると感じた。
- ・高校教育の現状が分かった。この科目のできる人とできない人の差はかなり大きいものになると考えることができた。
- ・時代が急激に変化する中で、高校でどの程度のデータサイエンスを学習しているのか興味があり

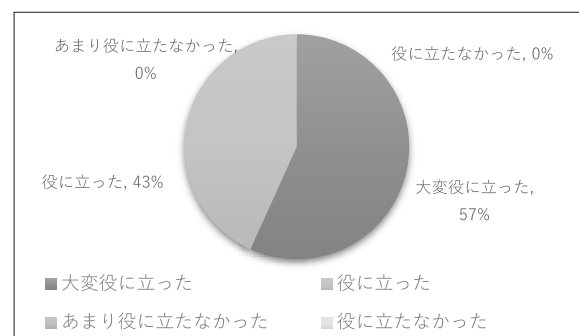
ました。看護系大学は小中学生レベルの算数もままならない人材が入学する中で、逆にデータサイエンスを使うことで興味を抱きながら基本的な計算ができるようになること、統計理解が容易にならないかと考えています。現在、私自身もFDの意味もあり大学院でデータサイエンスをやっていますが、内容を見ると同じぐらいのレベルの内容もかなりあります。看護は、このデータサイエンスを学んでおくと色々な問題解決の糸口となったり、様々な現象を数理的に可視化できることもあります。高校でここまでカリキュラムに取り入れられたのは嬉しい次第です。私自身今までR言語でしたが、Pythonを使用することが多くなるかと思います。現代はMoocなど成人学習も充実していますので、自分自身も学び続けることが必要と考えます。

- ・学生の現状からまだまだ高校までの学修状況が不十分な学生が入学していると感じました。
- ・現在の高校の情報の学習について、具体的にイメージすることができ、非常に数学言語に強い学生も出てくることが予想されました。同時に、ICTの教育活用は、コロナの影響もあり急速に進んでいますので、教育する側が十分理解しておらず、こうした学生の能力を発展的に伸ばしていくような、カリキュラムや研究課題を準備する必要があると思いました。
- ・高等学校での数理・データサイエンス・AI教育の現状の実際を聴く事ができ、学びが深まりました。
- ・予想以上に今後入学してくる学生は学んでくると思いました。現在、大学のカリキュラムに、統計学もありますが、新カリキュラムのDXの科目とより連動させることが重要だと思いました。
- ・高校の現状を知る必要があると思いました。
- ・看護情報論を教えるのに有用だった。
- ・文理融合は非常に重要と思います。大学共通テストの監督時に数学の問題を読みましたが、長文で問題が書かれており、数学だけで文章読解能力が必要であることを再確認いたしました。
- ・現在の高校での学修状況を知ることができ、とても勉強になりました。
- ・自分たちは分かっていると思っている学生のレディネスをいかに分かっているかを痛感した。ただ、教えたことと学んだことがずれることもあるので、自分の目の前にいる学生の学習状況は自分たちで見極める必要があるとも思います。貴重な研修の機会になりました。

2. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	21人	57%
役に立った	16人	43%
あまり役に立たなかった	0人	0%
役に立たなかった	0人	0%
合計	37人	100%



2) ご意見、感想など

- ・高校の先生とのコラボレーションで情報の授業について考えていく企画があると嬉しいです。
- ・最先端の高等学校の事例だったと思います。看護大学を選ばない高校生の事例であったかもしれないので、いろいろな高等学校の事例を紹介していただけるとさらにありがたいです。他の教科についても知りたいです。
- ・非常にタイムリーなテーマだったと思います。
- ・高校の教育の現状を知ることは非常に貴重な機会であると思います。

- ・データサイエンス、Python を用いて現状のデータを考えていく具体的な方法についての企画を希望する。
- ・高校の教育内容を知る機会が、なかなかないので、このような企画があるととても勉強になると思います。
- ・意味のある内容であったと思います。
- ・スーパーサイエンス指定ではない学校も含めて話があるともっと良かったと思う。
- ・どの分野も飛躍的に変化している中、高校生がデータサイエンスに関してどこまで学んでいるのか、高校で学んだことを引き続き専門分野で活かすために、相互連携することでかなりのスピードで進めていけるのではないかと考えました。2021 年卒業以降の学生は、学習したことを継続して活用できるようにしていきたいと考えます。
- ・高等学校教育の現状を踏まえた大学での授業の実践例を知りたいです。
- ・今回、講演者が言っておられたように、数学言語だけに重点を置くのではなく、状況依存的な言語をも扱い、翻訳できるような応用力、活用力こそ必要とされていて、いかに社会の課題に対して、このような言語を使った解決を見出すことができるか、を大学も模索していく必要があると思いました。大変ホットでタイムリーな話題で良かったと思います。
- ・これらを受けて、看護基礎教育に取り込んでいくか、具体的な事例、試みを知りたい。またこれらを現場ではどのように具体的に活かそうとしているのか、また看護教育で期待されていることは何かを知りたいと思いました。
- ・データサイエンスを教えられる看護教員はおらず、現状手探りである。
- ・入学前の学生の状況を把握することができるため、入学後の指導に活かすことができると思いました。今後も同様に高校教育の現状について企画していただけると良いと思いました。

3. 今後、本協会「大学教育委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・高等学校「生物」の学習について
- ・倫理教育
- ・Python、できれば Google で使えるなど、手軽に用いるための企画
- ・カリキュラムマネジメントについて
- ・高校まで学習習慣が身に付いていない学生へのモチベーション高揚に向けた関わり方について
- ・発達障害、学習障害のある学生への指導と工夫と実際
- ・発達障害の学生の就職に関する方向性
- ・大学に入るまでのアクティブラーニングの現状
- ・キャリア教育

②開催時期

- ・3月
- ・6月
- ・8月
- ・夏
- ・いつでも
- ・年度末、年度初め以外

③開催方法

- ・会場開催（1件）
- ・会場とオンラインのハイブリッド形式（5件）
- ・オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）（31件）

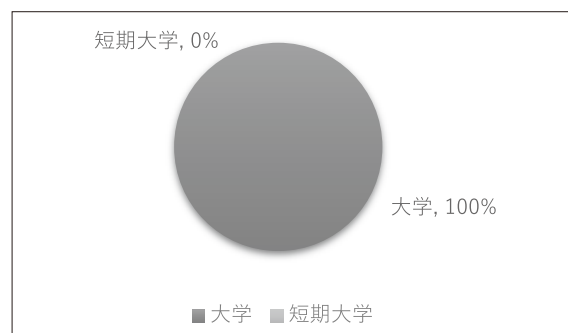
④開催場所

- ・テーマに興味があれば、どこでも行きます。

4. 参加者について

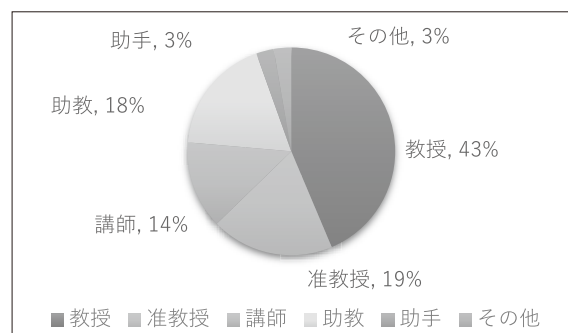
①所属

	人数	割合
大学	36人	100%
短期大学	0人	0%
合計	36人	100%



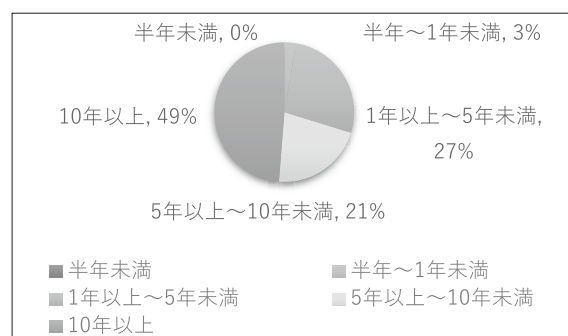
②職位

	人数	割合
教授	16人	43%
准教授	7人	19%
講師	5人	14%
助教	7人	18%
助手	1人	3%
その他	1人	3%
合計	37人	100%



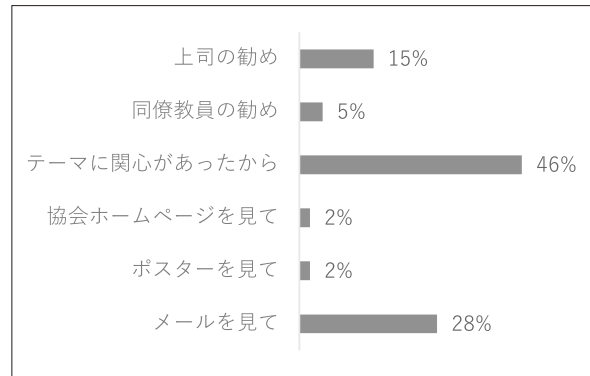
③在職期間

	人数	割合
半年未満	0人	0%
半年～1年未満	1人	3%
1年以上～5年未満	10人	27%
5年以上～10年未満	8人	21%
10年以上	18人	49%
合計	37人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	7人	15%
同僚教員の勧め	2人	5%
テーマに関心があったから	21人	46%
協会ホームページを見て	1人	2%
ポスターを見て	1人	2%
メールを見て	13人	28%
その他	1人	2%
合計	46人	100%



(その他の内容)
大学内の案内

2. 研究活動委員会

1. 趣旨

- ①教員による研究費獲得の向上、学術研究の大学内環境や条件を向上するための方策の調査研究
- ②研究助成と研究ネットワークづくり
- ③研究に関するセミナー、研修会等の実施
- ④上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会および総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

麻原 きよみ（聖路加国際大学）

坂本 真理子（愛知医科大学）

中新 美保子（川崎医療福祉大学）

○野末 聖香（慶應義塾大学）

（研究助成選考委員）

麻原きよみ（聖路加国際大学）、神田清子（高崎健康福祉大学）、杵淵恵美子（駒沢女子大学）、
小山友里江（北里大学）、佐々木綾子（大阪医科薬科大学）、高田由美（日本赤十字秋田看護大学）、
中岡亜希子（神戸女子大学）、松岡千代（甲南女子大学）

3. 2021 年度事業活動報告

1) 研究助成事業

2022 年度の看護学研究奨励賞、若手研究者研究助成、国際学会発表助成の募集を 4 月 1 日～5 月 31 日に行い、7 月 10 日に選考委員会で選考した結果を第 2 回定例理事会（7 月 30 日）に提出し、看護学研究奨励賞 13 件、若手研究者研究助成 10 件、国際学会発表助成 1 件を採択することを決定した。

2022 年度研究助成事業選考委員会の開催

日時：2022 年 7 月 10 日（日）13：00～17：00

開催方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：（理事）秋元典子、坂本真理子、島袋香子、武田祐子（五十音順、敬称略）

（選考委員）麻原きよみ、神田清子、杵淵恵美子、小山友里江、佐々木綾子、高田由美、
中岡亜希子、松岡千代（五十音順、敬称略）

2022 年度研究助成事業選考結果

①看護学研究奨励賞

19 件の応募があり、以下 13 件を採択した。

※採択時の所属です。

氏 名	所 属	論 文 名	掲 載 誌
石見 和世	帝京大学	Psychological Changes and Adaptation: Primary Amenorrhea Associated with Disorders of Sex Development	Global Journal of Health Science
浦中 桂一	東京医療保健大学	Comparison of Japan nurse practitioner-led care and physician trainee-led care on patients' length of stay in a secondary emergency department: A retrospective study	Japan Journal of Nursing Science
大植 崇	兵庫大学	Cross-national comparison of factors related to stressors, burnout and turnover among nurses in developed and developing countries	Nursing open
久保 善子	共立女子大学	A cross-sectional study of the association between frequency of telecommuting and unhealthy dietary habits among Japanese workers during the COVID-19 pandemic	Journal of Occupational Health
染谷 彰	東京医科大学	The process by which patients become aware of unilateral spatial neglect: A qualitative study	Neuropsychological Rehabilitation
西川 裕理	杏林大学	Realization and personalization by facing fatality: A grounded theory of developing the view of dying in people with heart failure	Journal of Advanced Nursing
林 さえ子	愛知医科大学	Sexual dysfunction associated with prostate cancer treatment in Japanese men: a qualitative research	Supportive Care in Cancer
平塚 克洋	昭和大学	How Parents of Adolescents and Young Adults with Biliary Atresia Surviving with Native Livers Transfer the Responsibility of Medical Treatment to Their Children in Japan	Journal of Pediatric Nursing
藤井 かし子	東京情報大学	Effects of Nurse and Care Worker-led Foot-Care Program on Older People's Foot Conditions: Before and After Intervention Study	SAGE OPEN NURSING
南口 陽子	武庫川女子大学	Creation of a Nursing Intervention Model to Support Decision Making by Elderly Advanced Cancer Patients and Their Families About the Place of Death, and Evaluation of the Model's Appropriateness and Clinical Applicability	Journal of Hospice & Palliative Nursing
宮内 清子	和洋女子大学	Cross-sectional assessment of sleep and fatigue in middle-aged Japanese women with primary Sjogren syndrome or rheumatoid arthritis using self-reports and wrist actigraphy	Medicine
向畑 毅	兵庫医科大学	Testing the relationship between patient-related stressor, psychological distress, work engagement, job satisfaction and recovery attitude among psychiatric nurses in Japan	Journal of Advanced Nursing
山本 加奈子	聖路加国際大学	Healthcare providers' perception of advance care planning for patients with critical illnesses in acute-care hospitals : a cross-sectional study	BMC Palliative care

②若手研究者研究助成

12件の応募があり、以下10件を採択した。

※採択時の所属です。

氏名	所属	研究テーマ
飯嶋 友美	高崎健康福祉大学	帝王切開で出産した母親が出産体験を意味づけるプロセス
石井 優香	東京情報大学	認知症ケアにおける看護師の患者への共感のあり方に関する研究
川崎 絵里香	京都先端科学大学	コロナ禍における医療系大学生のメンタルヘルス維持のためのポジティブ心理学的看護介入（PPI-N）の効果
河畑 匡法	川崎医療短期大学	コロナ禍での臨地実習における短期大学生の自己調整学習および社会的スキルと実習適応感との関係
熊倉 良太	長岡崇徳大学	血液透析患者の運動実施能力尺度の信頼性・妥当性の検証
笹野 奈菜	大阪医科薬科大学	非医療系学生に向けたプレコンセプションケアに基づく避妊の性教育デジタルコンテンツの開発
宍戸 恵理	聖路加国際大学	唾液オキシトシン検出用小型センサの妥当性の検証：生化学分析との相関
杉浦 将人	藤田医科大学	新生児集中治療室（NICU）に従事する医療者の認識する音環境の様相
高橋 育子	仙台赤門短期大学	看護職と養育者が共用活用できる乳児のスキンケア支援ツールの開発
原 加奈	秀明大学	学齢期を迎えた超低出生体重児の親の思いと子育てにおける困難

③国際学会発表助成

1件の応募があり、以下1件を採択した。

※採択時の所属です。

氏名	所属	論文名	学会名
仲野 宏子	産業医科大学	A qualitative study on the living conditions and fatigue among community residents in their 60s who are responsible for work or Household Roles (就労や家庭内役割を担う60歳代地域住民の自覚的疲労感について)	The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (7th WANS)

2018年度から2022年度の応募者数と受賞者数

年 度	看護学研究奨励賞		若手研究者研究助成		国際学会発表助成	
	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数	応募者数	受賞者数
2018年度	13	5	38	9	16	6
2019年度	14	8	17	8	3	3
2020年度	11	7	22	10	5	5
2021年度	17	11	20	9	4	3
2022年度	19	13	12	10	1	1
合 計	74	44	109	46	29	18

2) 学術研究および学術研究体制に関する事業

〈第1回研究セミナー〉

・研究助成受給者（4名）による研究成果発表

ホームページ配信：2022年9月17日～19日

視聴回数：23回

※採択時の所属です。

氏名	所属	研究テーマ
岩田 尚子	東京医科大学	学士課程の在宅看護実習に関わる訪問看護師による学生の学習意欲を高める臨地実習指導の在り方
大植 崇	兵庫大学	新型コロナウイルス感染症患者に対応する看護師のメンタルヘルスの実態調査
上條 翔矢	北里大学	熟練看護師の患者観察場面における注視パターンの特徴
田中 裕子	北海道医療大学	北海道胆振東部地震を経験した保健師からみた減災に有用な平常時の保健師活動

・講演「看護学における事例研究法 進化と今後の展望」

講師：黒江 ゆり子 氏（甲南女子大学特任教授 元岐阜県立看護大学学長）

日時：2022年9月17日（土）13:00～15:00

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信及び後日動画配信

プログラム：

13:00～13:10 開会挨拶・会長挨拶

13:10～14:40 講演「看護学における事例研究法 進化と今後の展望」

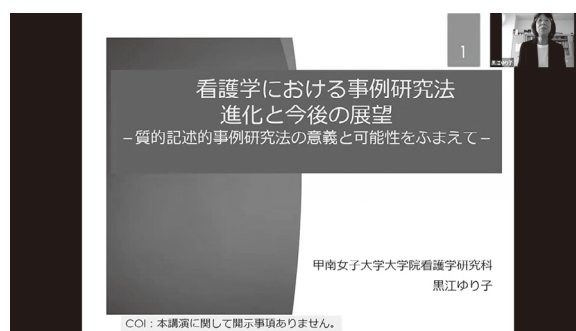
14:40～14:55 質疑応答

14:55～15:00 閉会挨拶

当日参加者：139名

動画配信期間：2022年9月21日～12月21日

動画視聴回数：412回



講演概要：

事例研究法の考え方や方法についてお示しいただき、事例研究法が看護学にどのような意義をもたらすのか、そこから何を見出すことができるのかについて、慢性看護領域での事例研究法をご紹介いただきながら、新しい視点、可能性をご提示いただいた。講演のアウトラインは以下の通りであった。

①事例研究法 case study research についての考え方 (Stake, Yin, Merriam, 山本ら)

- ②事例研究法の二つの姿勢
- ③事例研究法の意義について考える
- ④慢性看護領域における事例研究法の特長&実際
- ⑤慢性看護領域における事例研究論文からの思索

講演後の質疑においては、事例研究法を行う力を身につける方法、倫理的配慮、客観性の確保について、ケア実施者の設定等の質問があり、積極的なご参加をいただいた。参加者の満足度が非常に高いセミナーであった。

〈第2回研究セミナー〉

・研究助成受給者（7名）による研究成果発表

ホームページ配信：2023年2月25日～27日

視聴回数：92回

※採択時の所属です。

氏名	所属	研究テーマ
伊藤 慎也	北里大学	放射線被ばくに伴う「将来の妊娠出産への不安」と関連要因の検討
伊藤 文子	帝京大学	地域で生活している長期入院経験を有する統合失調症の人々における自尊心 (self-esteem) の維持に関する研究—統合失調症の人々との対話を通して—
高尾 憲司	京都先端科学大学	患者視点重視の医療サービス改善に指向した患者意見分類法の開発
田幡 純子	東京女子医科大学	生後3か月までの育児支援をする祖母のための育児支援疲労感尺度の開発
増田 悠佑	北海道医療大学	看護小規模多機能型居宅介護で働く介護職の終末期介護への前向きさに関連する要因
松尾 尚美	城西国際大学	高齢心不全患者と共有できる意思決定支援の構造化に関する研究
松本 裕	東海大学	保湿ケアやアロマセラピーで用いられるホホバオイルの抗炎症作用・抗酸化ストレス作用の検討

・講演「論文投稿の処方箋」

講師：増澤 祐子 氏（聖路加国際大学大学院 看護学研究科 准教授）

日時：2023年2月25日（土）13：00～15：00

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ配信及び後日動画配信

プログラム：

13：00～13：10 開会挨拶・研究活動委員会委員長挨拶

13：10～14：40 講演「論文投稿の処方箋」

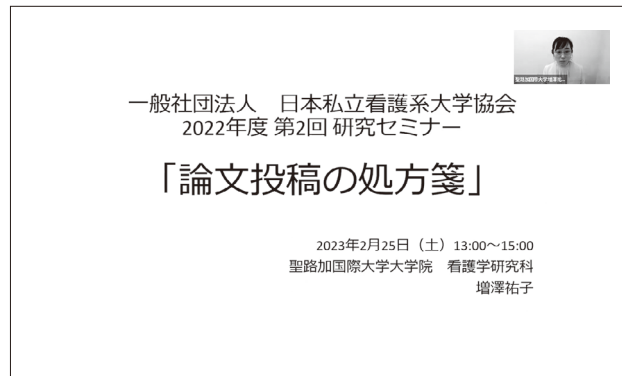
14：40～14：55 質疑応答

14：55～15：00 閉会挨拶

当日参加者：79名

動画配信期間：2023年3月2日～6月2日

動画視聴回数：582回



講演概要：

論文投稿に関する潮流を踏まえ、論文投稿までの道筋について、ご自身の研究と論文投稿の具体的な経験を紹介しながらお話いただいた。論文出版のステップは研究計画から始まっていること、良い研究疑問と研究計画を立てるポイント、論文の書き方や投稿先の選定、助成金の獲得や査読への対応などについて、要点を明確に示していただき、大変分かりやすくお話しいただいた。講演のアウトラインは以下の通りであった。

- ①論文出版の意義
- ②論文出版までのステップ
- ③研究計画の立案（レポーティングガイドライン含む）
- ④助成金獲得
- ⑤研究の実施
- ⑥研究成果の公表

講演後の質疑においては、査読者から計画と異なる統計解析を勧められた場合の対応について、オーサーシップの考え方について、英論文投稿の際の査読者への対応について、投稿支援業者の選定法について質問があり、事例を示しながら具体的にご助言いただいた。参加者の満足度が非常に高いセミナーであった。

3) 委員会

第1回研究活動委員会

日時：2022年9月15日（木）11：00～12：30

方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：麻原きよみ、坂本真理子、中新美保子、野末聖香（五十音順、敬称略）

議題：1. スケジュールの確認

2. 2023年度研究助成事業に向けて規程等の改正
3. 研究助成事業の英語の名称について
4. 2023年度研究助成選考委員について
5. 国際学会発表助成について
6. 研究セミナーについて

メール審議（2022年11月15日～18日）

当初内諾を得ていた講師の辞退を受け、急遽、新たな講師について検討し、聖路加国際大学の増澤祐子氏に依頼することとなり内諾を得た。

第2回研究活動委員会

日時：2022年12月3日（土）13：00～14：30

方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：麻原きよみ、坂本真理子、中新美保子、野末聖香（五十音順、敬称略）

- 議題：1. 研究助成事業規程の改正について
2. 2023年度研究助成事業について
3. 2022年度第2回研究セミナーについて
4. 2023年度事業活動計画について

第3回研究活動委員会

日時：2023年2月2日（木）16：00～17：30

方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：麻原きよみ、坂本真理子、中新美保子、野末聖香（五十音順、敬称略）

- 議題：1. 2023年度事業活動計画について

4. 今後の課題

- ①会員校における看護学研究者の育成のために適正で公正な研究助成事業を推進する。また改正した規程等を2023年度に適用し、運用上問題がないかを確認する。
- ②会員校の教職員が参加しやすい研究セミナー等の開催について検討する。

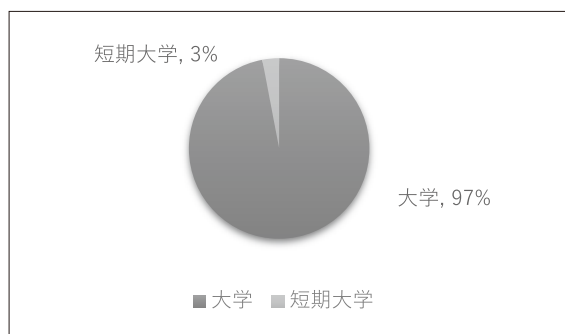
一般社団法人日本私立看護系大学協会 研究活動委員会
 「2022年度第1回研究セミナー」アンケート結果
 当日参加者：139名、動画視聴回数：412回アンケート回答者：97名

Zoomを用いたライブ配信
 2022年9月17日(土)
 動画配信期間：9月21日～12月21日

1. 参加者について

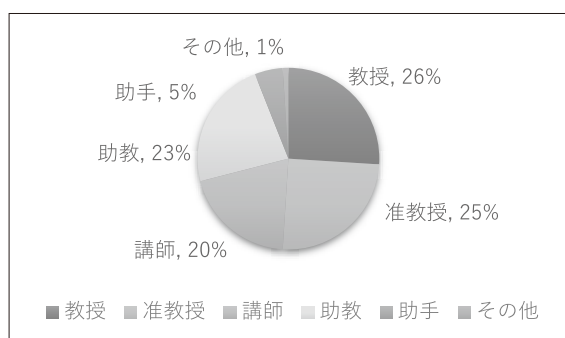
①所属

	人数	割合
大学	94人	97%
短期大学	3人	3%
合計	97人	100%



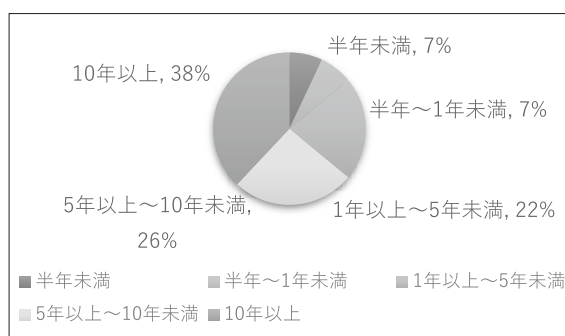
②職位

	人数	割合
教授	25人	26%
准教授	24人	25%
講師	20人	20%
助教	22人	23%
助手	5人	5%
その他	1人	1%
合計	97人	100%



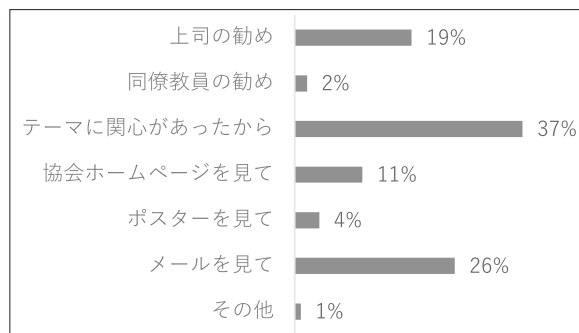
③在職期間

	人数	割合
半年未満	7人	7%
半年～1年未満	7人	7%
1年以上～5年未満	21人	22%
5年以上～10年未満	24人	26%
10年以上	36人	38%
合計	95人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	25人	19%
同僚教員の勧め	3人	2%
テーマに関心があったから	50人	37%
協会ホームページを見て	15人	11%
ポスターを見て	5人	4%
メールを見て	35人	26%
その他	1人	1%
合計	134人	100%



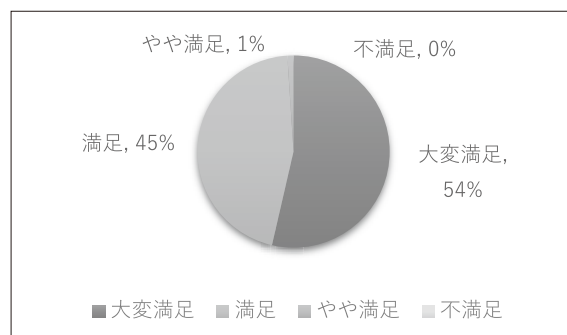
(その他の内容)
大学のFD・SD委員会からの勧め

2. 講演「看護学における事例研究法 進化と今後の展望」

講師：黒江 ゆり子 氏（甲南女子大学 特任教授／元 岐阜県立看護大学 学長）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	52人	54%
満足	44人	45%
やや満足	1人	1%
不満足	0人	0%
合計	97人	100%



2) ご意見、感想など

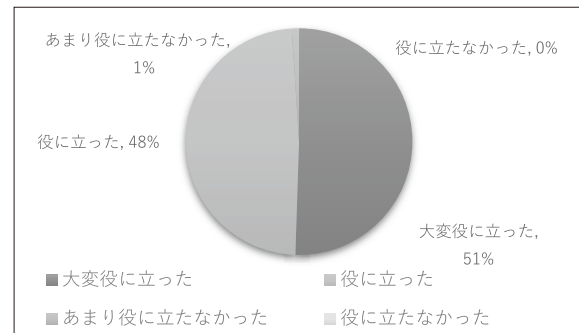
- ・事例研究の種類や手法の特徴など、内容はわかりやすく、とても参考になりました。今後の院生指導に役立てたいと思います。ご紹介の書籍リストがあればありがたいです。
- ・事前に資料をいただけるとよかったかなあ、と思いました。
- ・悲嘆の研究とケアを20年行ってきています。本日の講義でまとめてみようという事例が浮かんできました。感謝です。
- ・事例研究に関心があったため、大変勉強になりました。
- ・大変勉強になりました。事例研究の基本、研究方法のプロセスやポイント、具体事例も説明いただき事例研究方法の理解が今までより深まったように思います。
- ・事例研究の考え方について、学ぶことができました。学びを今後の教育に活かしたいと思います。
- ・プロセスやプログラムを事象として事例研究がされているものがあれば、知りたいと思いました。
- ・事例研究法の概要と実践例がとても参考になりました。
- ・事例研究法について具体的な事例や研究疑問から研究成果までのポイントがわかりました。実践を振り返ることで前向きに新たな経験を発見していくプロセスとして、研究という視点だけではなく、教育、実習の振り返りなどでも自らの看護を考え、推敲していくプロセスを取り入れていきたいと思いました。
- ・事例研究に興味はあったものの、取り組みが難しいイメージや研究方法として認められていないという認識があり、積極的に取り組む予定はありませんでした。しかし、本日の講義とQ & Aで取り組みの可能性を感じることができました。大学での教育実践にも応用可能な考え方ではないかと思うので、自分の教育実践を意識的に記録していくことから始めたいと思います。

- ・事例研究について取り組もうと思っていたので、本日の講演はとても参考になりました。
- ・事例研究をどのように進めていけばよいか疑問に思っていたため、大変勉強になった。
- ・事例研究法の全体像と理論的背景、進め方について、分析事例を用いたお話は大変分かりやすく、受講して本当によかったです。看護教育における実践の研究に用いて、実践力向上に役立てていきたいと思います。
- ・普段、質的研究に取り組んでいるものです。臨床看護師の実践での経験をどうにかして論文にしたいと思っていたところに本日の研修会を受ける機会をいただきました。希望をいただきました。取り組んでいこうと思います。
- ・わかりやすく、大変勉強になりました。
- ・事例研究を学生へ指導する際に、研究としての意義を自分のなかで明確化できていなくて自信がありませんでしたが、事例研究における普遍化について理解することができました。事例研究を通して、事象をどう捉えるか、また研究を進める中で、自己理解にもつながるため、看護学生に事例研究の重要性を伝えていきたいと思いました。
- ・臨床現場から離れている教員の場合、なかなか事例研究は難しいと感じました。
- ・事例研究という形で看護の実践を形にする、とても有用な研究方法だと感じました。価値ある事例研究が積み重ねられることで、そこから看護学生が多くの学びを得ることができるというお話に賛同いたしました。私自身も臨床で経験した多くの葛藤を想起しながらお話をお聞きしました。ぜひ、東先生、伊波先生の論文を読ませていただき、間主観的な体験をしたいと存じます。
- ・非常にわかりやすく、事例研究に取り組みたいという思いになりました。
- ・事例研究の重要性を学ぶことができました。
- ・ポイントが分かりやすく解説されていて大変参考になりました。
- ・概念から具体まで、とてもわかりやすかった。
- ・事例研究について理解が深まった。書籍や文献を読んでさらに勉強したいと思う。
- ・かつてケーススタディはケーススタディであって研究ではないと言われていたと思うが、研究的手順を踏めばれっきとした研究結果として一般化できることがわかった。高度ではあるがなじみやすく感じた。
- ・黒江先生のわかりやすくお話されていた講演を、興味深く視聴致しました。
- ・現在、事例研究の指導中であり、とても参考になりました。
- ・事例研究について改めて理解することが多かった。学生に事例研究を課しているので大変参考になりました。
- ・現在本学では卒業研究として事例研究は適切かということを検討しています。今回の研修で看護ならではの研究の視点があること、何のための研究なのか、普遍化、一般化についても考える機会となりました。
- ・大変わかりやすく、事例研究についての整理ができました。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	49人	51%
役に立った	47人	48%
あまり役に立たなかった	1人	1%
役に立たなかった	0人	0%
合計	97人	100%



2) ご意見、感想など

- ・手元資料があると助かります。本日の資料も後日でも良いので頂けると参考になります。
- ・大変勉強になりました。
- ・同じ関心のあるメンバーが出会う場があると良いのではないかと思います。
- ・事例研究貴重な講演でした。参加者に資料の配付があればよかったです。ご紹介の書籍、文献などに当たってみたいので。
- ・大学教育を行う上で必要な学習機会をつくって頂き感謝しています。
- ・事例研究の第二弾をお願いしたいと思います。
- ・素晴らしい企画でした。
- ・とても興味深い内容でした。
- ・最近の研究方法を知ることができ、黒江先生を拝顔できてよかった。
- ・事例研究についての企画は、とてもタイムリーでした。
- ・色々な研究方法についてご教授していただけると嬉しいです。

4. 今後、本協会「研究活動委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・スコーピングレビューについて (2件)
- ・研究仲間の作り方 (2件)
- ・教育評価：パフォーマンス評価・ルーブリック評価
- ・AIの臨床活用
- ・事例研究の勉強会を希望いたします。
- ・質的研究、事例研究、ミックスメソッドなど
- ・質的研究の分析の実際
- ・看護の活動を評価する方法
- ・学生教育を対象としたテーマ
- ・講演の質問にあった、大学の教員の立場で事例研究法のように多面的に・深く看護実践を探究するための研究手法について興味があります。
- ・新しい研究知見について (何でもよい)
- ・教育実践研究に関すること
- ・テーマまでは思いつかないのですが、海外に日本の看護研究を発信するにあたり、日本の強み等をご教示願いたいです。
- ・教員として学生指導の在り方についての研究

- ・一般病棟における身体拘束という問題について、基礎教育機関での取り組み
- ・看護教育の歴史に関すること
- ・研究方法について

②開催方法

- ・オンライン（18件）
- ・オンデマンド配信（2件）
- ・Web開催+オンデマンド配信（4件）

③開催時期

- ・土曜日の午後（2件）
- ・日曜日
- ・土日祝
- ・前期
- ・夏ごろ
- ・夏季休暇期間（2件）
- ・3月～9月
- ・例年通り（3件）
- ・オンラインならいつでも可

④開催場所

- ・オンライン（5件）
- ・会場なら東京か大阪
- ・コロナ感染状況にもよりますが、できれば、地方での開催もお願いしたいと思います。
- ・対面開催であれば、都内が良い。地方からも行きやすい。または地方を順番に回る等も良いと思います。

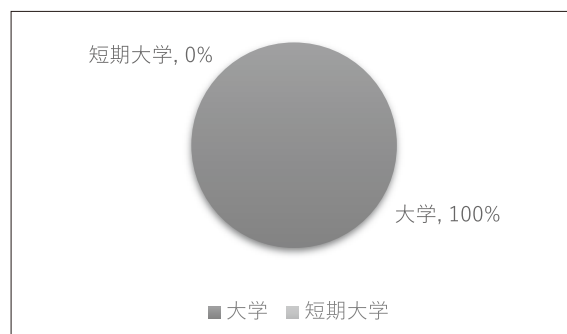
一般社団法人日本私立看護系大学協会 研究活動委員会
 「2022年度第2回研究セミナー」アンケート結果（当日参加者）
 当日参加者：79名、アンケート回答者：56名

Zoomを用いたライブ配信
 2023年2月25日（土）
 動画配信期間：3月2日～6月2日

1. 参加者について

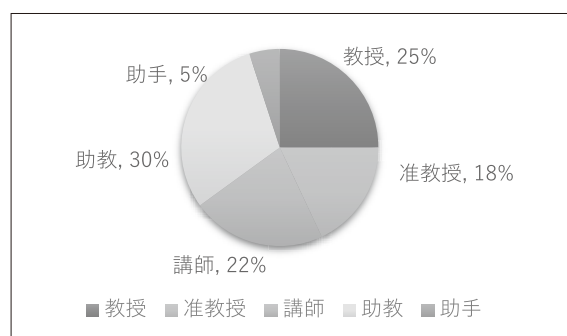
①所属

	人数	割合
大学	56人	100%
短期大学	0人	0%
合計	56人	100%



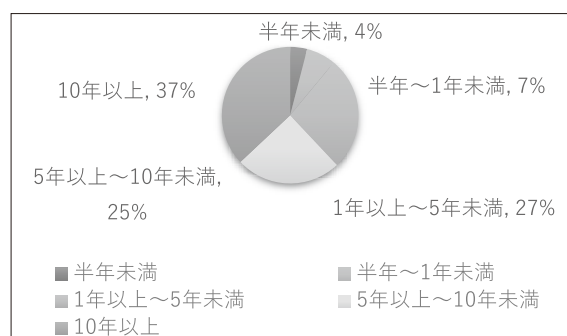
②職位

	人数	割合
教授	14人	25%
准教授	10人	18%
講師	12人	22%
助教	17人	30%
助手	3人	5%
合計	56人	100%



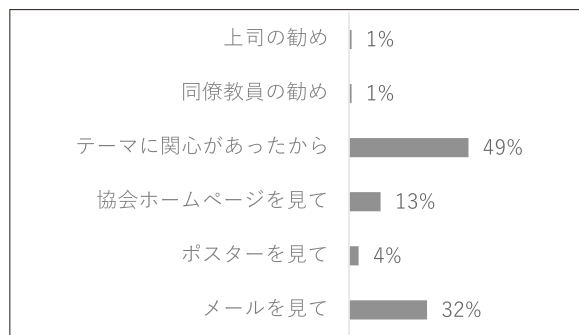
③在職期間

	人数	割合
半年未満	2人	4%
半年～1年未満	4人	7%
1年以上～5年未満	15人	27%
5年以上～10年未満	14人	25%
10年以上	21人	37%
合計	56人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	1人	1%
同僚教員の勧め	1人	1%
テーマに関心があったから	37人	49%
協会ホームページを見て	10人	13%
ポスターを見て	3人	4%
メールを見て	24人	32%
合計	76人	100%

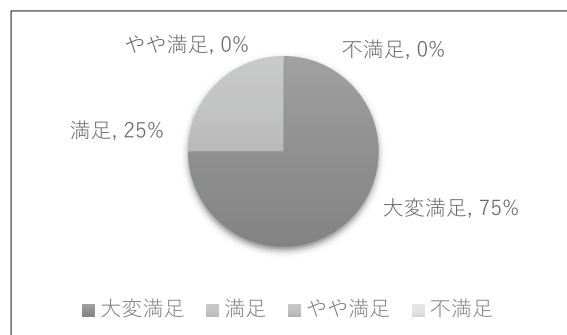


2. 講演「論文投稿の処方箋」

講師：増澤 祐子 氏（聖路加国際大学大学院 看護学研究科 准教授）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	42人	75%
満足	14人	25%
やや満足	0人	0%
不満足	0人	0%
合計	56人	100%



2) ご意見、感想など

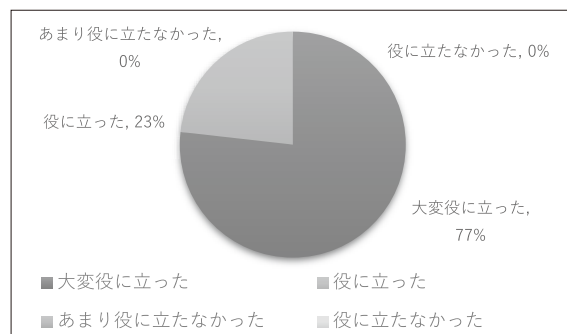
- ・英語論文としての投稿は、私にはハードルが高すぎましたが、基本は同じと言われていたので、参考にしたいと思います。
- ・海外の雑誌に投稿しようと思っているため、こういった雑誌に投稿したらよいかなど大変参考になりました。
- ・具体的でとても分かりやすかったです。頑張ろうという気持ちになりました。
- ・現在の自分のレベルからは高すぎたが、研究計画の重要性に気づくことができた。
- ・ご自身の経験を交えながらの非常にわかりやすいご講演でした。
- ・研究を進めていく上での勇気をいただいた、reject されても頑張ろうと思いました。
- ・新たな気持ちで拝聴いたしました。
- ・海外の学会誌への投稿について経験がなく、今回のお話を聞き大変参考になった。
- ・今年度から博士課程に進学しており、研究計画書作成に苦戦していた所での本日の研修は自己の研究を振り返る機会となった。
- ・とても具体的で参考になりました。また、研究への刺激を受けることができました。
- ・和文誌の投稿についてもお聞きしたかったです。
- ・英語論文投稿の際の貴重なノウハウを教えてくださいました。是非挑戦したいと思います。
- ・実際に基づくお話で大変よく理解できました。
- ・論文投稿、査読対応について、非常に具体的な経験を聞かせていただいて参考になると同時に、勇気づけられました。
- ・海外ジャーナルへの投稿時のポイントを教えてくださいました。
- ・論文投稿へ向けて努力いたします。

- ・とても豊かな内容でした。今回いただきました学びを研究活動（特に執筆）に役立てます。
- ・同感することが多かった。
- ・ご自身の経験を基に具体的なご示唆をたくさんいただきました。また、日々の業務に追われる中で、この講演を拝聴できたことは、なによりもエネルギーをいただくことができました。
- ・自分自身の経験が豊富だったため、わかりやすかった。書籍の例示などもありがたいです。
- ・看護学の研究を英文で投稿することは、読者（日本人看護職）が少ないのではないかと思い、消極的でした。ですが、国際誌に投稿することでいろんな査読が受けられて、いい論文が書けるようになるのだなと少し前向きになりました。
- ・とても参考になりました。
- ・大変分かりやすく、かつ惜しみなくご自身の体験で獲得した知恵などをお話し下さりあっという間の90分 だった。普段から、実習や雑務に追われ研究時間が取れないと感じていたが、そのような中でも、計画的に正しいプロセスを踏み研究を進めていくことが、研究活動を成功させる秘訣なのではないかと感じた。
- ・査読を受ける中で良い内容になり社会に還元することが責務だと痛感しました。
- ・今まさに修士論文のRevisionの最中であり、大変参考になりました。また、国内誌であります他学会誌でRejectになっていることもあり、増澤先生のような方でも何度か挑戦されたのだというご経験をお聞きし、頑張ろうという気持ちが高まりました。
- ・ご自身の経験に基づいた内容とプレゼンテーションレベルの高さに感服しました。
- ・ご経験をもとに具体的にお話しいただきとてもわかりやすかったです。参考にされている書籍をご提示いただけましたので勉強させていただきます。また、先生のお人柄の素晴らしさが伝わる語りで講義の内容は難しいものであったはずですが集中して聞き入ることができました。実習にも行かれておられますとのこと、努力を結果につなげることができる方は忙しさを理由にされることなく、また周囲を暖かくする心の広さをお持ちでいらっしゃるということを改めて感じました。頑張ろうと思います。
- ・失敗を乗り越えられたプロセスを開示くださったことに感謝です。増澤先生の人となりがにじみ出るご講演、私も母性看護学分野なので、いつかお会いできますこと、楽しみにしています。
- ・とても内容の濃い講演でした。増澤先生の体験談がすべて勉強になりました。具体的な方法をお教えましたので、実践したいと思います。
- ・具体的な内容で、痒い所に手が届いた説明でした。
- ・増澤先生のご経験を交えて語ってくださったことが、大きな学びとなりました。特に、研究計画の重要性、報告ガイドラインの活用、ジャーナルファインダーの活用など、自身の研究活動に活かしたいと思うことがたくさんありました。書籍もご紹介いただいたことで、改めて研究に向き合う覚悟ができました。リジェクトに気持ちが萎えてしまいましたが、諦めずに掲載を目指したいと思いました。勇気をいただきました。
- ・先生のより難しそうなことに立ち向かっていく姿勢に感銘を受けました。

3. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	43人	77%
役に立った	13人	23%
あまり役に立たなかった	0人	0%
役に立たなかった	0人	0%
合計	56人	100%



2) ご意見、感想など

- ・有意義な時間でした。
- ・参考になった。
- ・同テーマで、セミナーを企画いただきたい。
- ・資料の共有や動画配信いただける等、ご配慮ありがとうございます。
- ・大変参考になる内容であった。
- ・今後も論文作成に関する企画を期待しております。
- ・失敗も含めて、率直にお話くださり、苦手意識を持ちやすい英文投稿が身近に感じられました。お話もとても上手で、具体的でとても分かりやすかったです。
- ・大変ありがたい企画でした。
- ・教育で忙しいことを言い訳にしていたが、その合間を縫って色々取り組んでいることに気持ちを動かされた。頑張らないといけないと思いました。
- ・学生・臨床への研究指導についても取り扱って頂きたいです。
- ・英文での投稿はハードルが高いですが、自分の研究に合うところを選ぶ、そこから始めます。
- ・論文投稿までのステップがよく分かった。失敗談を聞いたことで accept は簡単ではないがきりめなことが大切と理解できた。
- ・自分の大学では上司が忙しいこともあり、ゆっくり研究の相談をする時間が持てないため、このようなセミナーは大変貴重です。研究初学者や助教レベルの論文執筆に関するセミナーがあったらまた参加したいです。
- ・講師の選任がとても良い。
- ・学内ではどうしても教育・学内業務中心となってしまう、研究を後回しにしてしまいがちです。学内でも熱心に取り組まれている大学もありますが、取り組みが多くはない大学もあると思います。このような機会がありますと奮起することができます。
- ・とても貴重なお話を伺うことができました。このような研究のプロセスやコツを知る機会にはなかなか出会えませんでしたので、本当に貴重な機会となりました。
- ・研究活動を続けるモチベーションになる研修会でした。
- ・今回は海外での発表についてでしたが、日本にはないサポートも多いのでしょうか？

4. 今後、本協会「研究活動委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・国際学会での発表について
- ・本日のように経験者から講演
- ・システマティックレビュー、コクランの活用など
- ・査読、質的研究、執筆
- ・研究仲間の見つけ方
- ・研究について（基礎的なことでも助かります。）
- ・研究の指導方法
- ・クリニカルクエスチョンからリサーチクエスチョンにするために重要なこと
- ・論文執筆に関するテーマ
- ・質問調査票作成の基本、QOL 研究の基本（間違い易い点など）
- ・実装研究
- ・今回のセミナーのように考え方をお聞きする機会がありますが、実際に自分の研究方法やテーマの選択等をご指導いただける先生がいない状況です。先生方は、自分の興味を持ったテーマに関して、どのように共同研究者を集められているのでしょうか？それとも、独自の方法で研究を進められているのが本来の研究の進め方なのでしょうか？研究者としての研究の進め方も知りたいです。
- ・「研究力の高め方」先生達のご経験と研究力を高める How to などを知りたいです。研究をして、査読者からのコメントから学び、改善していくプロセスで力を積み重ねていくなど、自分で自分を成長させられるように研究力を身につけていくしかないと感じておりますが、何かヒントが得られるような研修会があれば、ありがたいです。

②開催時期

- ・2月（5件）
- ・3月（2件）
- ・3月や9月の休暇期間
- ・今回のような内容であると、11月頃にあると助成金獲得に向けての準備ができる。
- ・年2回。本年度のタイミングは良かったです。
- ・年に3回ほど
- ・土日
- ・いつでも

③開催方法

- ・オンライン（ライブ配信とオンデマンド配信）（47件）
- ・会場とオンラインのハイブリッド形式（9件）

④開催場所

- ・東京（2件）

3. 国際交流委員会

1. 趣旨

- ①看護における教育、学術及び文化の国際交流を通して、将来国際的に関連機関との連携協力及び援助に繋がるための方策の調査研究
- ②看護界の動静と看護学教育の国際交流の現状と将来についての講演会等の実施
- ③上記①、②に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

櫻井 しのぶ（順天堂大学）

○田村 由美（日本赤十字広島看護大学）

（委員）

中村 敦子（日本赤十字広島看護大学）

若林 律子（順天堂大学）

3. 2022 年度事業活動報告

1) 研修会の開催

テーマ：ダイバーシティの視点に立った教育（日本・海外の実践例を学ぶ）

目的：ダイバーシティの視点に立った教育を提供するために、看護系教職員の理解を促すための知識や理論、実践を最新情報から学ぶ。

内容：ダイバーシティの視点に立った教育に取り組む会員校の講師の国内外の経験や研究からご講演いただき、会員からの疑問点や取り組むべき課題について意見交換する。

開催日時：2022 年 11 月 5 日（土）15 時 00 分～16 時 30 分

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ開催及び後日動画配信

プログラム：

15：00～15：10 開会挨拶・会長挨拶

15：10～15：30 講演 1：医療従事者に求められる性的指向と性自認の多様性を尊重する
取り組み—LGBTQ 全国調査から

講師：日高 庸晴 氏（宝塚大学 教授）

15：30～15：35 質疑応答

15：35～15：55 講演 2：「クィア」を知ってもらうために—セクシュアルマイノリティの
現状

講師：藤倉 ひとみ 氏（順天堂大学 助教）

15：55～16：00 質疑応答

16：00～16：20 講演 3：「ジェンダー格差の可視化～問題の把握からはじめよう～」

講師：甲斐田 きよみ 氏（文京学院大学 准教授）

16：20～16：25 質疑応答

16：25～16：30 閉会挨拶

当日参加者：40名

動画配信期間：11月8日～2023年2月8日

動画視聴回数：205回

講演概要：

講演1. 医療従事者に求められる性的志向と性自認の多様性を尊重する取り組み -LGBTQ 全国調査から

日高 庸晴 氏 (宝塚大学 教授)

講演では、まずLGBTについて説明がされた。L (Lesbian) G (Gay) B (Bisexual) T (Transgender) は、LGBはSexualOrientation (性的指向)、TはGenderIdentity (性自認)に分けられ、日高氏らが行った調査では、国内ではLGBが約8%、Tが約0.5%であることが報告された。男女雇用機会均等法の改正指針においては、「セクシャルハラスメントには、同性に対するものも含まれる」と明示され「性的指向または性自認」にかかわらず、指針の対象となることが明示されていることが示された。特に差別的な意味合いを含む言葉「オネエ、オカマ、ホモ、レズ、おなべ」などに注意が必要であり、レズビアンをレズと呼んではいけないことなどが強調された。

看護職の倫理綱領には、「性的指向、性自認」、助産師会倫理綱領には、「性的指向」について差別しないことが記載されていることが示された。

性同一性障害に係る児童生徒に対する学校支援の事例が挙げられ、小中高で支援を受けてきた学生たちが、大学生として看護大学で学んでいることを、看護教員として認識していくことが重要とのことであった。多様性の尊重の例として制服の例を挙げて説明された。日高氏の調査結果より、いじめ、不登校、自傷行為も多いことや、医療機関に行くことを控えていることなどの課題が挙げられた。

また、医療機関での課題も挙げられ、医療機関への啓発の必要性が伝えられた。

質疑応答では、数年前より文科省から通知が出ているが、なぜ広がらないのかとの質問に対し、文科省の通知を読んでいる教員が少ない現状があることが日高氏より回答された。近年では、医学部のコアカリキュラム、看護師国家試験における母性の出題基準にも取り入れられてきており、認知度に変化は見られるが、大学のFD、SDなどで学びを広げていくことが重要であるとのことであった。



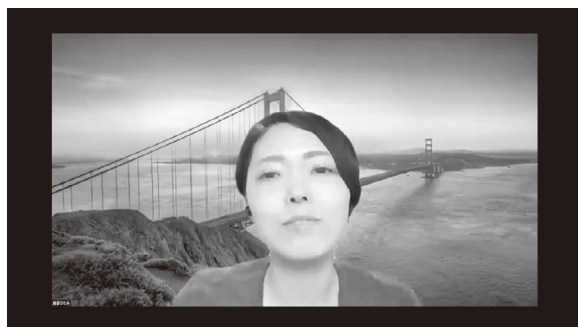
講演2. 「クィア」を知ってもらうために—セクシャリティマイノリティの現状

藤倉 ひとみ 氏（順天堂大学 助教）

藤倉氏が、実際に取り組んでいる大学における講義内容を通して、「クィア」を考える機会をどのように学生に提供しているかを説明いただいた。LGBT では、それぞれ悩みが異なることや近年は、LGBTQ +と言われており、「+」の部分の説明なども講義の中で行っていることが説明された。また、藤倉氏の専門が文学であることから、ヨーロッパにおけるクィア史と文学、アメリカにおけるクィア史と文学の講義を行い、現代のクィアについて学生がディスカッションするよう講義を組み立てていることが紹介された。

さらに、ゲイ、トランスジェンダーの当事者のインタビュー動画を講義に取り入れ、セクシャルマイノリティの当事者との接し方などのディスカッションを取り入れていることが報告された。ディスカッションでは、学生から「意識しすぎない」、「多様性を受け入れることが重要である」、「LGBTQ の知識を深めることが必要である」などの意見が出されたことが報告された。

質疑応答では、動画視聴の感想を聞く前段階として講義をしていることがあれば教えて欲しいとの質問があった。藤倉氏より、動画視聴前にLGBTQ の基礎知識について講義をしているとの回答があった。また、学生によっては、基礎的な知識が全くないことや、小中高での取り組みがそれぞれ異なるため、前段階での講義は必要であることが述べられた。さらに、小中高から教育され、少しずつ触れてきている学生や全く触れてきていない学生など差がある現状があることや、教員自身が触れていく必要があることなどが意見交換の中で挙げられた。



講演3. ジェンダー格差の可視化～問題の把握からはじめよう～

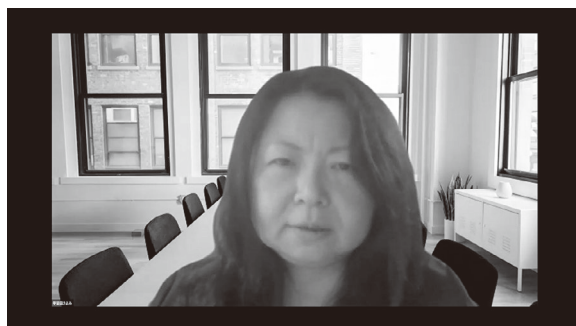
甲斐田 きよみ 氏（文京学院大学 准教授）

甲斐田氏がこれまでにナイジェリアで実施してきたジェンダー開発を通して、ジェンダー格差の可視化について、講義をいただいた。ナイジェリアの女性「ハンナトゥさん」を事例として取り上げ、彼女が抱えている問題、原因、解決策を学生たちが考える講義内容が紹介された。さらに、ナイジェリアのハンナトゥさんの問題は日本でも起きていることが、データに基づいて説明された。教育、健康、経済、政治の4分野から測定されるジェンダーギャップ指数（GGI）では、日本は毎年100位以下であり、2022年においても116位であることが示された。さらに、科学、技術、工業、数学（STEM）分野においても女子学生の割合が少ないことが示され、日本でもナイジェリアと同じような問題が起きていることが示された。また、無意識にジェンダー格差が起きていることが指摘された。

質疑応答では、ジェンダー格差は、いろんなことに繋がっていることに学生が気づきにくい

ことや、日本にもジェンダー格差があることに学生が気づかないことがあるが、どのようにダイバーシティを理解する工夫をしているかとの質問があった。甲斐田氏からは、甲斐田氏が実際に介入したケースを用いて、ケースメソッドを使って、実際に学生たちに分析してもらいながら、学生に考えることを講義の中で提供していること、日本の中でもジェンダーに関わる問題があることを伝えていると回答があった。さらに、学生は、社会経験が少ないため、ジェンダーについて考えることが難しい可能性もあるが、身近な課題を可視化し、認識していくことが大切であると甲斐田氏より述べられた。

また、意見交換では、男女の身体的特性からジェンダーエクイティは無理だと考える人もいること、それぞれの特性を生かした平等が可能だと考えるとの意見が述べられた。



おわりに：

ダイバーシティの視点に立った教育を提供するために、LGBTQ やジェンダー格差を看護教職員が理解していくことが重要であり、その一助に本研修会はなったと考える。本研修会を機会に、一人一人の多様性を理解し、関わっていくことができるダイバーシティの視点に立った看護教育が普及することが期待される。

2) 委員会の開催

第1回国際交流委員会

日時：2022年10月3日（月）18時30分から19時30分

開催方法：Zoomを用いたWeb開催

出席者：（理事）櫻井しのぶ、田村由美

（委員）中村敦子、若林律子（五十音順、敬称略）

議題：1. 2022年度国際交流委員会事業活動について

- 1) 理事、委員の自己紹介
- 2) 2022年度事業活動計画と予算の確認
- 3) 委員会内の業務分担

2. 研修会について（11月5日開催）

- 1) 事務局より進捗の報告
- 2) 研修会の当日業務の担当
- 3) アンケート設問について

3. 今後のスケジュール

第2回国際交流委員会

日時：2023年2月17日（金）16時30分から17時30分

開催方法：Zoomを用いたWeb開催

出席者：（理事）櫻井 しのぶ、田村 由美

（委員）中村 敦子、若林 律子（五十音順、敬称略）

議題：1. 研修会の振り返り

2. 2023年度事業活動計画

4. 今後の課題

昨年度に引き続き、Webセミナーは多くの会員校からの参加者を得ることができ、繰り返し視聴できる利点も確認できた。研修テーマとして寄せられている声は、国際看護学の取り組み、海外研修の内容、地域生活者の視点を理解する教育など多岐にわたっている。話題提供は、地域やテーマ等が偏ることなくできるだけ多くの会員校から行っていただきたいと企画している。国際交流の現状、課題、障壁、工夫、改革などを忌憚なく検討しながら交流できる場でありたい。

一般社団法人日本私立看護系大学協会
国際交流委員会企画 研修会
アンケート結果

テーマ：ダイバーシティの視点に立った教育（日本・海外の実践例を学ぶ）

開催日時：2022年11月5日（土）15：00～16：30

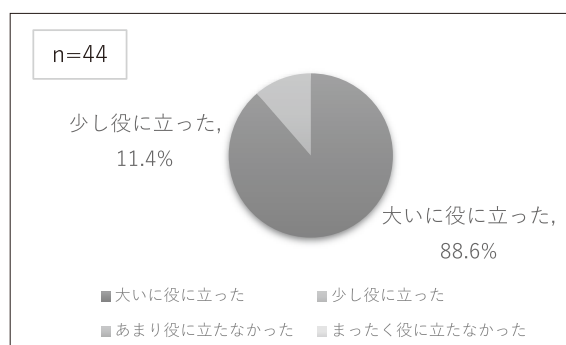
参加者：当日 Zoom 参加 40 名 オンデマンド配信視聴 205 名 計 245 名

回答者数：44 名

回答率：18.0%

【講演や企画について】

講演 1 宝塚大学看護学部 教授 日高庸晴先生の講演内容について



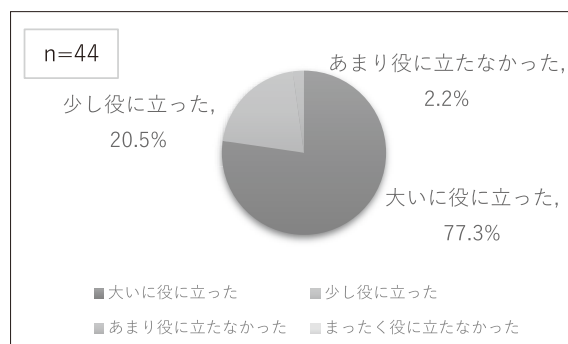
講演 1 宝塚大学看護学部 教授 日高庸晴先生の講演についてのご意見・ご感想など

19 件の回答

- ・短時間でたくさんの情報をいただき、自分の認識をアップデートする必要を感じました
- ・大変興味深く拝聴しました。
- ・多くのデータからわかりやすくお話いただきました。
- ・医療現場で考えなければならないこと、学生に教育しておくべきことで大いに参考になりました。また、看護実践の観点からだけでなく、学生支援や SD の観点から学生自身のことという観点でも大学として取り組むべき課題を痛感し、とても参考になりました。
- ・大変勉強になりました。どのあたりを調べ考えるべきかの指針のようなご講義でした。
- ・データで示していただき、納得できる部分が大変多かった。参考になった。
- ・用語が難しく、センシティブなことなのでどの言葉を使うべきなのか今まで悩んでいました。今でも難しいとは思いますが、先生のご講義で理解が深まりました。
- ・10月7日に朝日大学において FD・SD 研修会に来ていただきました。本日の講演も短時間ではありましたが、非常にわかりやすい講演でした。LGBTQ の現状を理解するために、教員が正しい理解をするとともに、大学全体としての取り組みの重要性を認識することができました。
- ・講演内容の中で見たアンケート結果でいつの時期に気づくのか初めて知りました。自分自身が未だよく理解できていないことにも気づき、勉強不足だと思いました。世の中の変化と法律、あらゆるデータとともに説明いただき、現状が理解できた。大学全体で検討する必要性を強く感じました。
- ・私自身リプロダクティブヘルス看護を担当していますが、ちょうど学生研究で LGBTQ + の研究計画書を立てるにあたり、文献を読み込んでいるところでした。学生自身も日本の医療環境に多様性を持った人々の受診に対応できていないのではないかと、将来の医療環境改善を軸に学びを深めたいという思いがあります。このような学生の存在もあるため、共に私自身も学び、この講演の内容も含めて役立てたいと考えております。

- ・ダイバーシティは簡単ではないなと思い、看護師を育成するものとして、患者対応においても配慮していくことがたくさんあることを改めて考える機会になりました。
- ・現実に存在することを幅広く伝えていくことが大切です。
- ・アンケート等から現状を知ることができました。
- ・LGBTQの定義（意味）を深く理解することができました。カミングアウトによって辛い思いをしている方を数値として示して下さり、日本社会のジェンダーに関する現状を知ることができました。
- ・医療従事者みんなが知るべき内容だと思いました。お話が分かりやすかったです。
- ・“さん付け”が小学校から浸透していることを知りました。
- ・私も手術の同意書などを家族であることに対してはかねてから疑問を感じておりました。血が繋がっていても家族関係が良好でない家庭はいくらでもあります。やはりそこはご本人の意思を尊重できるとよいと思いました。
- ・データを示していただき、理解が深まった。特にMTF, FTMのリスクの高さに気づくことができた。

講演2 順天堂大学医療看護学部 助教 藤倉ひとみ先生の講演内容について



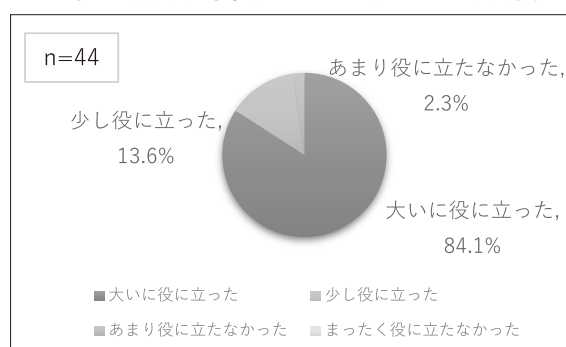
講演2 順天堂大学 助教 藤倉ひとみ先生の講演についてのご意見・ご感想など

18件の回答

- ・興味深いお話でした。
- ・学生になって先生の授業を聴きたいと思いました。
- ・当事者のインタビューから学生たちに考えてもらうという先生の授業の工夫、参考になりました。
- ・基本的な用語を確認できました。
- ・Qという概念知識がなかったので、これから学修していきたい。
- ・「性はグラデーション」ということですが、DSDs（性分化疾患）の人にとっては、「グラデーション」は当てはまらず傷つける考え方であることを知っておく必要があると思います。
- ・医療系の大学での取り組みの一例として紹介していただいたが、本学も歯学部を有しているが、横のつながりが薄いため、基礎教育の中で教育することの難しさを感じた。
- ・クイアーについてわかり易い説明でした。
- ・大学でどのように取り入れていったらよいかについて参考になりました。
- ・確かにLGBTQ プラスと言われるように、たくさんの方々により違いがあります。実際患者さん、医療を受けられる方、周囲の友人とも関わる中で性的思考もさまざま、関わりに迷うこともあります。知識を持った上で実際に関わるということも必要なのではと思います。個々によって様々な反応もありますので、学生には基本的な知識と態度の教育は必要と考え、自身の教育にも活かしていきたいと思います。
- ・ジェンダーの教育は難しいけど多様性を認める寛容な社会の実現に必要な教育です。
- ・教育における取り組みを知ることができました。

- ・私自身、臨床で働いていた際にLGBTQの方々にお会いすることがありました。そのため学生時代から必要な知識を得ることはとても重要だと思いますし、藤倉先生の講演から新しい知識を習得でき大変嬉しかったです。
- ・あまり知らなかったことが多く、勉強になりました。分かりやすかったです。
- ・LGBTQのQについて理解が深まりました。
- ・ヨーロッパのクィア史と文学で同性愛が不寛容になるようなきっかけは何だったのでしょうか？特に他者に迷惑をかけることではないように感じます。直系の子孫を残せないことがやはり重要な事なのでしょうか？好き嫌いは自分でもコントロールできることではないので、他者が干渉すべきことではないと個人的には思っているのですが・・・
- ・道徳的に学ばされることが多いが、文学を通し、他者の生き方を通して考えるという方法は、性だけでなく人間そのものを捉える看護の対象理解につながると思った。

講演3 文京学院大学外国語学部 准教授 甲斐田きよみ先生の講演内容について



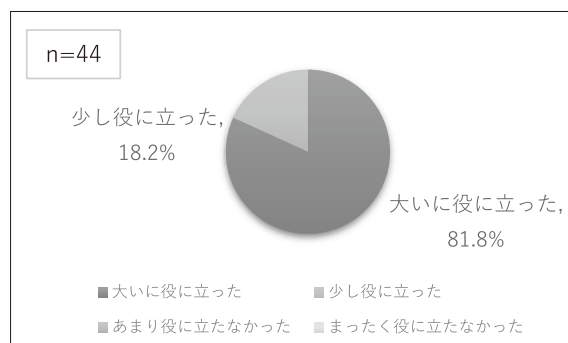
講演3 文京学院大学外国語学部 准教授 甲斐田きよみ先生の講演についてのご意見・ご感想など 20件の回答

- ・ナイジェリアのジェンダーのケースが印象に残りました。
- ・わかりやすく、お話し頂きとても理解できました。
- ・日本は、世界の中ではこんなにジェンダー格差があるとは思っていませんでした。今日知ることができて本当によかったです。
- ・日本にいる自分たちの問題であるというお言葉、とても響きました。
- ・国際的な位置づけが確認できました。
- ・アフリカ女性の識字率と貧困は以前女子割礼でも問題としたが、改善が難しいと感じた。
- ・我が事として考えていかなければならないと感じた。
- ・看護学部の女子学生がジェンダーギャップに気づくのは難しいと思います。どのように意識させるか、工夫が必要だと思いました。
- ・男女平等を日本でも絶対に実現したいです。女性蔑視の政治家の発言など、日本は信じられないくらい遅れています。一方で、初めから「男女平等は無理」と考える女性、「日本のどこが男女不平等だ？」と疑問すらもたない男性もいて、課題が山盛りだと感じます。ぜひぜひ取り組んでいきたいです。甲斐田先生のお話しにも、田村理事のコメントにもとても励まされました。
- ・アフリカでの豊富な実践と教育がうまく融合しているように感じられた。小児看護学の授業の中でも、もっと「国際」を意識した授業設計をしてみたいと思う。
- ・事例をもとにご説明くださったので、一緒に考えることができました。わかり易かったです。
- ・学生がこれから社会に出るというために身につけるべき内容でした。
- ・国際的な視点から、まだまだジェンダーに関する問題は多く存在すること、アフリカの事例を持つての講演ありがとうございます。しばらくオーストラリアに滞在していましたが、それでも多くジェンダー問題というのはあります。一見ジェンダー格差なのではと思われる文化でも、よく分析す

ると女性を守る意味で行われる文化という形になっている場合もあり、一概にジェンダー格差があると切り切れないなとも思います。国々の価値観の問題を考える難しさを感じさせます。

- ・国際比較は重要な点であり、女子学生が多い看護系教育機関ではしっかり点検していくことが大事と気づかされた。
- ・国際社会の中での日本という視点を持つこと。井の中の蛙にならない。取り残されていく日本の姿が見えました。
- ・海外のことでなく日本のこととしての認識も大切と納得できました。ジェンダーの不平等について、事例をご紹介頂いたことでより深く理解することができました。また我が国のジェンダー格差（不平等）が未だに根強くあることを痛感しました。
- ・研修会のテーマからこの内容が出てくるとは思いませんでしたが、納得しました。学びになりました。
- ・日本におけるジェンダー問題について考えさせられました。
- ・あらためて、ジェンダー格差を実感いたしました。看護の世界は女性が多いので感じにくいのですが、本当に先生のおっしゃる通りです。性教育が変わらないのも官僚が変わらないからだと思いました。教育を男女平等に受けられていると評価されているようですが、あくまでジェンダーバイアスのかかった教育である限り、ジェンダー格差は縮まらないことを改めて感じました。
- ・最もその社会に適応している人が選択するであろう公務員への教育を通し、社会を変えていくことについて考えることができた。

大学の職務として、グローバルな人材育成を行う上で、今回の企画「ダイバーシティの視点に立った教育（日本・海外の実践例を学ぶ）」の企画について



今回の企画「ダイバーシティの視点に立った教育（日本・海外の実践例を学ぶ）」についてのご意見・ご感想など

20件の回答

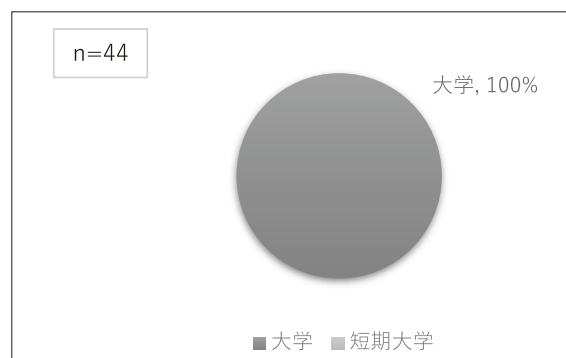
- ・まずは教員間で問題意識を共有する必要があると思いました。
- ・将来の医療職者となる看護学生に対するこれらテーマの教育の重要性をあらためて考えることができました。
- ・理解不足な点に気づけて、良い学びになりました。
- ・この内容は、大学でのFD・SDでもすべきことだと思いました。
- ・わたくしたちの教育実践の場がダイバーシティであることを実感する機会となり、看護学教育だけでなく、FD・SDの観点からも大いに参考になりました。
- ・母性の教科目だけでは時間的な不足を感じる。看護学部として今後どのように展開していくのか、参考になる講演内容でした。
- ・母性看護学を教えています。選択科目の母性実践看護論や臨床実習指導者会の講義にジェンダーについて事例を用いていますが、難しい内容ですので勉強させていただくために参加いたしました。

た。FD 研修テーマとしてもよいのだな、と気づきました。

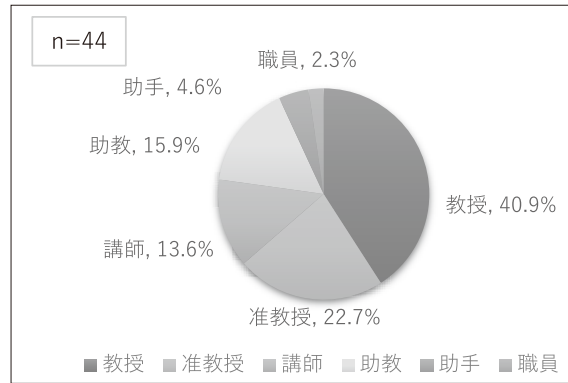
- ・「多様性」と簡単に言いますが、私たちの中に「看護職者」のステレオタイプがある限り「ダイバーシティの視点に立った教育」は難しいと感じました。
- ・難しい内容をわかりやすくご指導いただき感謝しております。田村理事のコメントとても素晴らしかったです。
- ・とてもよい企画だと思いました。看護教育の大半を私学での教育に携わっていますが、このような研修に参加したのは初めてです。もっと積極的に参加・交流していきたいと思います。
- ・リプロダクティブヘルス看護学専門ですので、これからの社会を担う学生への教育には、積極的に取り入れていきたいと思います。
- ・選択の余地を与えているか、男子教員だから演習時に制限があるというある意味学生が不利益になっていることがないかの点検が必要と考えた。教員側の都合で教授内容が制約していないかは再考の余地はあるとの気づきを得た。
- ・特に最近、学生が自分の意思でなく家族の意思にコントロールを受けている事を感じるケースが多い。話を聴くとこれまでの刷り込みと推察できる女性への対応があることを感じた。今回のようなテーマは、個人が自己決定できる力を育むうえでも重要な視点と思います。
- ・実際に男子で入学し卒業後女性になり就職している学生もいます。特別のことではないと思います。
- ・看護系大学内や病院内での更衣室の工夫、など具体的な対策についてお話しを聞けたらよいと思う。本学は、ユニフォームをジェンダーレスに変更しました。
- ・これまであまり関心をもっていなかった内容でしたが、もっと身近なこととして認識する必要があると感じました。今後は学生の中に悩みや生きづらさを抱えている人がいることを念頭に置いて関わろうと思いました。
- ・実践で活躍されている先生方の講演から、多様性を受け入れ、柔軟に対応することが、現代社会で働く上で非常に大切だと実感しました。そのためには、適宜、自分自身の知識を更新（アップデート）することが必要だと再確認しました。
- ・このような研修をぜひ続けて下さい。看護教育に活用したいですが方法が分からないので、その点についてもご教示いただければ（他校の例など）ありがたいです。
- ・LGBTQ の学生への配慮についてもっと知りたいと思いました。
- ・どの講演もすばらしく、教育現場に生かしていきたいと感じました。また、第2弾など継続的にこのようなご講演をいただけましたら幸いです。
- ・対象理解や人間の健康な生き方の理解の基礎として、初年次教育に取り入れた方がよい。

【参加者ご自身について】

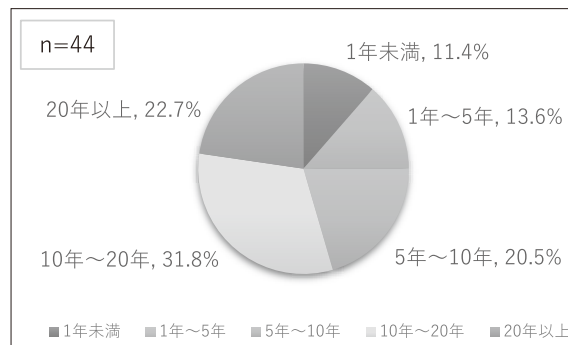
ご所属について



職位について

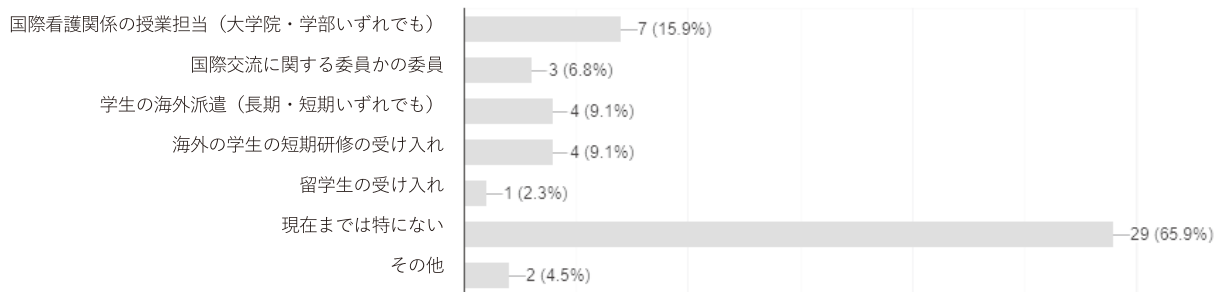


在職期間について



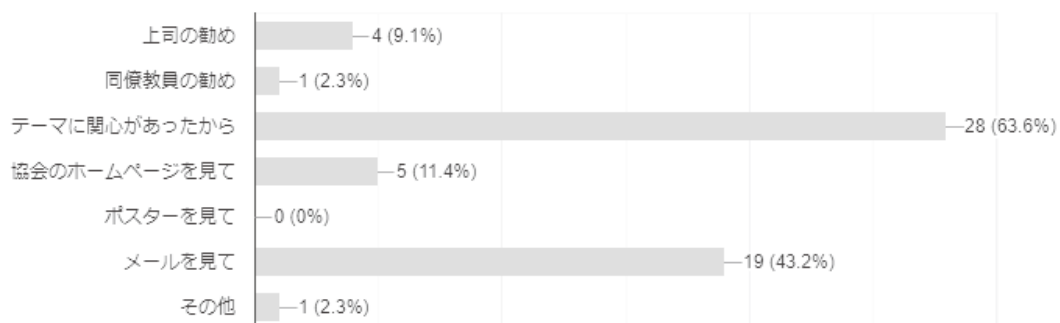
国際看護や国際交流に関する職務について（複数回答可）

n=44



今回の研修参加のきっかけについて（複数回答可）

n=44



今後、日本私立看護系大学協会 国際交流委員会で行う事業について

〈希望するテーマ〉

10 件の回答

- ・ 日本国内および海外における医療の格差について
- ・ 教育方法について
- ・ 教育の中のハラスメント
- ・ 外国人住民・患者さんのケア
- ・ 大学の組織と教員組織との連携
- ・ 外国人が受ける日本の医療
- ・ 海外交流からの学び：コロナ禍においてたいへん難しくなっているが、工夫により学びたい学生への道を拓く工夫や Web 研修を経ての実際の海外研修などの内容を希望します。若い先生には経験者も多いので期待したいです。
- ・ 変貌する社会情勢に即したテーマ
- ・ 感染症禍での国際交流
- ・ 日本と外国の看護教育の違いなどもぜひ知りたいです。

〈開催方法〉

12 件の回答

- ・ Zoom + 対面 (3 件)
- ・ オンライン (3 件)
- ・ オンデマンド (2 件)
- ・ オンラインもしくはオンデマンド
- ・ web 開催
- ・ オンライン研修とオンデマンド
- ・ リモート

〈開催時期〉

7 件の回答

- ・ いつでも (2 件)
- ・ 同様時期でよい
- ・ いつでも大丈夫ですが、土曜がいいです。
- ・ 秋から冬でよい
- ・ 方法によりますが 10～11 月も良いと思いました。
- ・ 夏～冬

〈開催場所〉

5 件の回答

- ・ オンライン (3 件)
- ・ どこでも
- ・ オンデマンドを取り入れていただけると、時間のある時に学ぶことができるのでありがたいです。

【考察】

参加者の所属は全て「大学」であった。職位は「教授」が4割で最も多く、次いで「准教授」が約2割であった。在職期間は10～20年が最も多かった。研修参加のきっかけは「テーマに関心があったから」が最も多く、関心の高いテーマであったと考える。

ご講演いただいた3名のご講演内容いずれにおいても、「大いに役立った」と約8割の回答が得られ、概ね満足度の高いテーマであった。自由記載では、「数値をお示し下さり現状が知ることができた」「大学全体としての取り組みの重要性を認識できた」「自身の教育に活かしたい」「国際的な位置づけが確認できた」「国際比較は重要であり、看護系教育機関では（ジェンダー格差を）しっかりと点検していくことが大切だと気づかされた」などの回答が得られ、受講者自身の教育活動に活かされることが期待された。また、国際的な視野の広がりも伺えた。「ご講演とコメントに励まされた」との回答があり、質疑応答の時間が有意義であったことも伺えた。

今後希望するテーマについては、「国内外における医療の格差について」「外国籍の方に対する日本の医療・ケア」「看護教育における海外との相違」「教育方法」「感染禍での国際交流」などの回答があり、外国人人口の増加を受けた内容への関心がみられた。

4. 大学運営・経営委員会

1. 趣旨

- ①私立看護系大学の振興に必要な国、地方公共団体又は民間からの補助金、寄付金、その他の支援が可能になるような実態調査・分析
- ②大学運営・経営の向上に繋がる事業を展開するための方策の調査研究
- ③上記①、②に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会へ

2. 担当理事および委員（○：委員長）

井上 智子（国際医療福祉大学）

棚橋 泰之（神奈川歯科大学短期大学部）

長澤 正志（淑徳大学）

○百瀬 由美子（日本赤十字豊田看護大学）

3. 2022年度事業活動報告

1) 研修会

テーマ：学校法人のガバナンス改革とこれからの私立大学の経営戦略

目的：学校法人のガバナンス改革のポイントや留意点を理解し、私立大学の経営戦略についての新たな知見を得て、大学の運営・経営を推進していくための示唆を得ること。

開催日時：2022年10月24日（月）13時30分～16時50分

開催方法：Zoom ウェビナーによるライブ開催及び後日動画配信

プログラム：

13：30～13：40 開会挨拶・会長挨拶

13：40～15：10 講演「学校法人のガバナンス改革」

講師：大河原 遼平 氏（弁護士、元 文部科学省高等教育局私学部参事官
付専門官）

15：10～16：40 講演「これからの私立大学の経営戦略」

講師：本間 政雄 氏（大学マネジメント研究会 会長）

16：40～16：50 閉会挨拶

当日参加者：138名

動画配信期間：大河原氏10月27日のみ、本間氏10月27日～2023年1月27日

動画視聴回数：大河原氏120回、本間氏280回

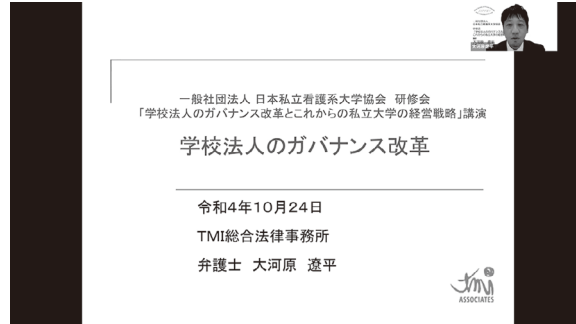
講演概要：

大河原氏の講演内容

(1) 学校法人のガバナンスとは

- ・私立学校法上のガバナンス制度
- ・令和元年私学法改正後の動き など

- (2) 私学法改正法案骨子と対応方策のポイント
 - ・学校法人における意思決定、理事・理事会、評議員・評議員会、監事 など
- (3) その他改革方策～「攻め」「守り」の観点で
 - ・守りのガバナンスに関する主な項目（内部統制システムなど）
 - ・攻めのガバナンスに関する主な項目（ガバナンス・コードなど）



本間氏の講演内容

- (1) 看護系大学の現状は？
- (2) 私立大学は淘汰の時代へ
 - ・入学者確保の展望は？
 - ・大学は多すぎる？
- (3) 私立大学に未来はあるか？
 - ・国公立大学の圧倒的優位性
 - ・私立大学が生き残る条件は など



2) 教育等に関する実態調査

- ① 4年制大学の教育等に関する実態調査の実施（日本看護系大学協議会との合同調査）
 - 調査期間：10月11日に調査票（エクセルファイル）を送付
 - 回答期日：11月14日（12月12日まで延長）
- ② 短期大学の教育等に関する実態調査の実施
 - 調査期間：10月11日に調査票（エクセルファイル）を送付
 - 回答期日：11月14日

3) 委員会

①第1回大学運営・経営委員会

日時：8月10日（水）10時00分～11時00分

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：（前理事）春山 早苗

（現理事）井上 智子、棚橋 泰之、長澤 正志、百瀬 由美子（五十音順、敬称略）

議題：1. 教育等に関する実態調査の実施と報告書作成について

2. 研修会について

②第2回大学運営・経営委員会

日時：10月4日（火）11時00分～12時00分

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：井上 智子、棚橋 泰之、長澤 正志、百瀬 由美子（五十音順、敬称略）

議題：1. 研修会（10月24日開催）について

1) 当日の担当について

2) アンケート設問について

2. 教育等に関する実態調査について

1) 進捗の報告と今後の予定

2) データベース化について

3. 今後のスケジュール予定

③第3回大学運営・経営委員会

日時：2023年2月22日（水）10時00分～11時00分

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：井上 智子、棚橋 泰之、長澤 正志、百瀬 由美子（五十音順、敬称略）

議題：1. 看護系短期大学に関する実態調査について

2. 研修会の振り返り

3. 2023年度事業活動計画について

4. 今後のスケジュール予定

4) 「看護系大学の教育等に関する実態調査」合同会議

①第1回合同会議

日時：6月17日（金）17時00分～19時00分

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

議題：1. 今後の検討課題

2. 引継ぎ内容の確認

3. その他

②第2回合同会議

日時：8月23日（火）17時00分～18時00分

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

議題：1. 各委員会委員の紹介

2. 2021年度看護系大学に関する調査内容とスケジュールの確認

3. データベース化（rawデータの活用）の検討

4. その他

「JANPU-NP」と「JANPU-NP以外のNP」記載について

大阪公立大学（大阪府立大学と大阪市立大学の扱い）

教員数の調査

Q&Aについての検討

③第3回合同会議

日時：2023年2月17日（金）13時00分～14時30分

開催方法：Zoomを用いたWeb会議

議題：1. 2021年度看護系大学に関する実態調査（2022年度実施）の集計について

2. 今後の検討事項

3. その他

4. 今後の課題

1) 看護系大学の教育等に関する実態調査結果の活用について

会員校がデータベースを有効に活用できるよう、データベース化における活用目的・活用方法、調査項目について理事会での意見を反映させ、日本看護系大学協議会と連携し、決定していく。

2) 研修計画

大学運営・経営強化のために年1回研修会を企画している。今後も、教育の質向上および補助金獲得やガバナンス等の大学運営・経営に資する知見が得られる企画を立案していく。

一般社団法人日本私立看護系大学協会 大学運営・経営委員会
 研修会「学校法人のガバナンス改革とこれからの私立大学の経営戦略」アンケート結果
 当日参加者：138名、アンケート回答者：90名
 動画視聴回数：大河原 遼平 氏 120回（10月27日のみ配信）
 本間 政雄 氏 280回（10月27日～2023年1月27日配信）

Zoom を用いたライブ配信

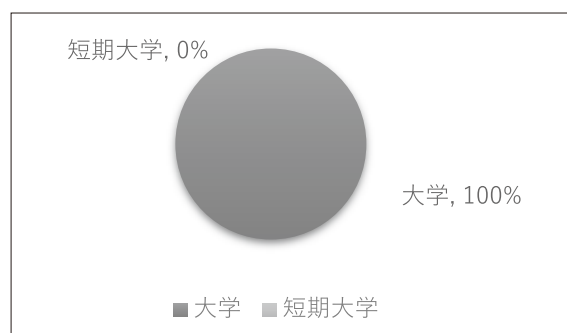
開催日：2022年10月24日（月）

動画配信期間：10月27日～2023年1月27日

1. 参加者について

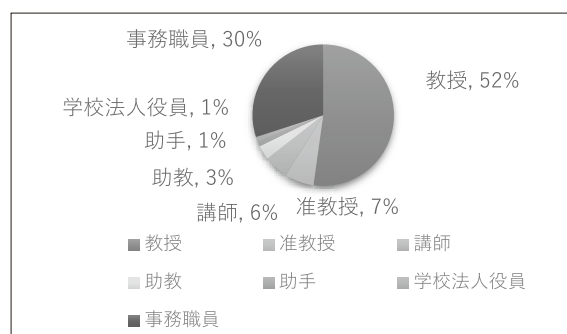
①所属

	人数	割合
大学	89人	100%
短期大学	0人	0%
合計	89人	100%



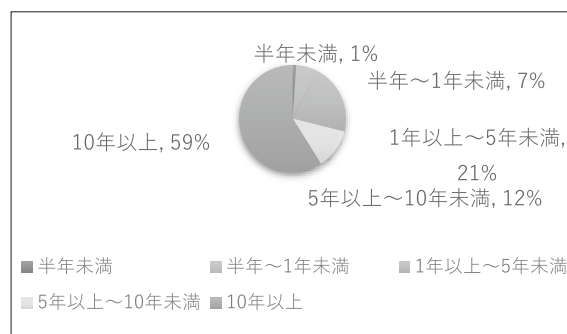
②職位

	人数	割合
教授	47人	52%
准教授	6人	7%
講師	5人	6%
助教	3人	3%
助手	1人	1%
学校法人役員	1人	1%
事務職員	27人	30%
合計	90人	100%



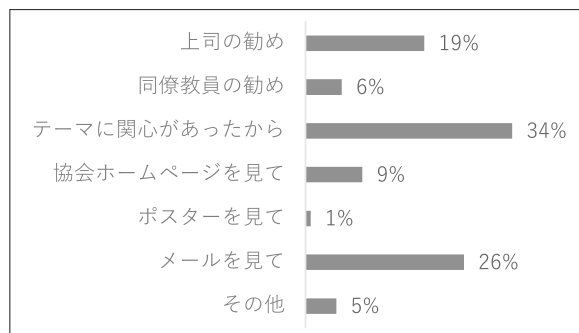
③在職期間

	人数	割合
半年未満	1人	1%
半年～1年未満	6人	7%
1年以上～5年未満	19人	21%
5年以上～10年未満	11人	12%
10年以上	53人	59%
合計	90人	100%



④参加のきっかけ（複数回答可）

	人数	割合
上司の勧め	23人	19%
同僚教員の勧め	7人	6%
テーマに関心があったから	40人	34%
協会ホームページを見て	11人	9%
ポスターを見て	1人	1%
メールを見て	30人	26%
その他	6人	5%
合計	118人	100%



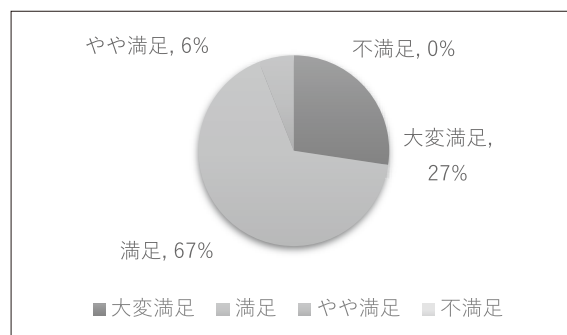
(その他の内容)
FD・SD研修の一環として、学内委員会からの指示、学部FDとして位置づけられていた、学内研修、FD・SD研修にしているため、SDの一環

2. 講演「学校法人のガバナンス改革」

講師：大河原 遼平 氏（弁護士、元 文部科学省高等教育局私学部参事官付専門官）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	23人	27%
満足	56人	67%
やや満足	5人	6%
不満足	0人	0%
合計	84人	100%



2) ご意見、感想など

- ・大変よくわかりました。
- ・具体策をご解説いただく時間をもう少しいただけると、さらに参考になると思います。第二弾を期待いたします。
- ・もう少し説明の時間をいただきたかった。
- ・講演にて使用されていた講義資料が欲しかった。
- ・速さについていけなかった。資料を全部いただきたい。
- ・日々の教育活動に追われていたことに気が付きました。「私学法」や「寄付行為」などの大学運営の骨子について、認識が薄かったと自覚しました。
- ・私学法改正法案骨子をもとにした対応方策のポイントの説明が大変わかりやすかったです。また、ガバナンスについて「守り」「攻め」双方の観点から改革する、とのご講演が興味深かったです。
- ・今年度より大学の理事になりましたが、今一つ理解できてないことがございましたので、本日のご講演を聞くことができ、攻めと守りをどのように展開していくのか、参考にさせていただきたいと存じます。
- ・評議員の役割が重くなる旨の情報を聞いて縮み上がっておりましたが、大河原先生のご講演を拝聴して、未熟者なりの見通しを持つことが出来ました。
- ・大学法人のガバナンスや今後の法改正について、大変わかりやすく説明いただき、とても勉強になった。事務職や大学幹部に聞いてほしい内容であった。
- ・分かりやすい説明で、今後対応が必須であることだとわかりました。
- ・丁寧で分かり易い説明でした。

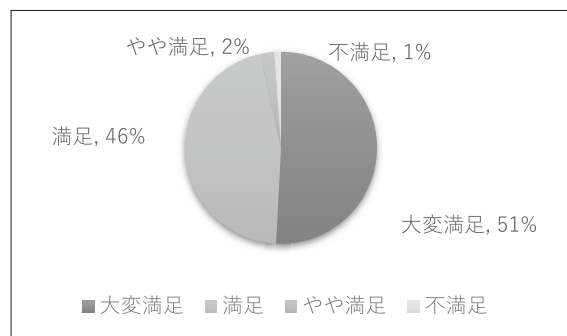
- ・大変興味深い内容でした。資金さえあれば学力が低く学習意欲がなくても入れる大学は大学ではないと思いますし、大学生なのでしょうか。苦労しています。

3. 講演「これからの私立大学の経営戦略」

講師：本間 政雄 氏（大学マネジメント研究会 会長）

1) 内容について

	人数	割合
大変満足	44 人	51%
満足	39 人	46%
やや満足	2 人	2%
不満足	1 人	1%
合計	86 人	100%



2) ご意見、感想など

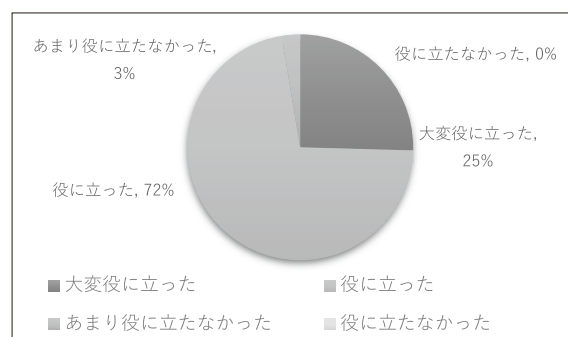
- ・おもしろい講演でした。広い知見で、自分のモチベーションアップに繋がりました。
- ・言いにくい点をストレートに言葉にさせていただくことで胸がすく思いでした。私立看護系大学の建設的な生き残り策を検討しなければならない時代が到来したと、改めて確認できました。
- ・その通りと思いつつ先生のお話を聞きました。財政が豊かであれば、本学での講演をお願いしたいと思った次第です。学び多き視野が広がりました。
- ・講演にて使用されていた講義資料が欲しかった。こちらの問題だが、途中業務が入り聞き取れなかった箇所があったのが残念だった。
- ・先生の貴重な経験も踏まえた内容で、随所に先生の私見的なご意見もあり、とても興味深く拝聴することができました。
- ・実務に基づく示唆は、とてもリアルに感じられて良かったです。
- ・問題、課題および物事の本質をとらえた本間氏の講演内容に感銘を受けました。
- ・外部の人からの意見を入れることは重要だと思う。いつまで現役で、今後先生の後進はいらっしゃるのか？
- ・すべてがわかりやすく、明日からの活力になりました。また、エビデンスに基づく情報公開はこうあるべきだとのこと説明に感じました。
- ・これまでの経験からの興味深いお話でした。都市の中規模大学で働いておりますが、看護学部の定員は確保できるが、母体が・・・というところはドキッとしました。
- ・豊富なご見識からの現状認識と未来に向けてのご提案を拝聴し、地方の私立大学として生き残りつつ、また今後の看護教育をより良くするにはどのようにすべきか、切実に考える機会となりました。大規模大学だけでなく、地方の大学でのご経験をふまえた率直な言葉は、とても響きました。
- ・先生ご自身の実践に基づいたご講演で、本当に寝る間もない内容でした。看護系が入学者を確保しても「本体」が学生を集められず、財政破綻、経営危機に陥る可能性があることを、受験者数の動向から実感している今日この頃でございます。先生のご講演内容からヒントを得て、実践につなげていくためにどうすればよいか、考えていきたいと存じます。
- ・大変興味深いお話でした。
- ・本間先生のご講演を拝聴して、生き残りをかけた闘いとはいかに厳しい道のりであるのか痛感しつつ、本学で取り組めそうな具体策が少々湧いてきました。肝心の実行力に乏しい人間ですが、地道に取り組んで参りたいと心を新たにすることが出来ました。

- ・私立看護系大学の今後の取り組みについて展望がイメージできました。
- ・大変わかりやすく内容に共感出来ました。学生への丁寧な指導が意味のあることで、教育力の充実、質向上に向けた取り組みの意義を改めて理解しました。
- ・わかりやすかったです。
- ・綺麗ごとではない、率直な本音の意見が聞けて良かったです。面白く聞かせて頂きました。
- ・看護以外の立場からの話が聞けて良かった。
- ・私立大学の生き残りにかけてどのように改革していくか考えさせられるご講義でした。
- ・私学運営のご経験のある先生のお話はとても心に響きました。近年公立大学の開学、学部設置が増え、既存の小規模私学の本学にとっては、非常に頭の痛い問題です。少子化で高校が統廃合されるのにどうして大学が増えるのか理解できないところです。さらに学生の教育の身近な問題と将来的な構想など、これらの問題を考えている時に先生のお話を伺えたことにありがたく思います。

4. 研修会全体

1) 企画について

	人数	割合
大変役に立った	29人	25%
役に立った	82人	72%
あまり役に立たなかった	3人	3%
役に立たなかった	0人	0%
合計	114人	100%



2) ご意見、感想など

- ・講演者の2人が対照的でとても興味深かったです。
- ・タイムリーなテーマで大変有益でした。
- ・今後も、このような大学マネジメントや大学運営の見通しについて、講演・研修の機会を作っていただけると幸いです。
- ・今日の本間氏のような講演をシリーズで聴いていきたいです。
- ・経営陣をボトムアップで見る力も必要だと思った。
- ・総合的に満足しております。本間先生が双方向でとおっしゃっていたので、できれば、ZOOMのリアクションボタンを有効であれば、より聴衆との対話的感がでるのではと思いました。最新のZOOMリアクションはよくなっています。また、聴衆者同士が集っている感覚がわかるように、何人の方がここで聞いているのかという人数も教えていただけると嬉しいです。
- ・大容量サイズの事前配布資料を開くことができませんでした。新たにDLするものが多く、戸惑いが多かったためです。開けないままの参加で困りはしませんでした。
- ・大変参考になりました。
- ・地方の小規模私立大学の生き残りは厳しいのだと理解しました。今後どのような努力が効果があるのか具体的な話が聞きたいです。大学規模や地域性等を加味したグループでの研修が必要ではないでしょうか。
- ・新人評議員なので位置づけや役割等がわからず、非常に困っておりましたので、今回の研修会のテーマを拝見して飛びつきました。
- ・関心のある内容で良かったと思います。
- ・大変だなと思いました。

- ・自分のやるべきことを考える良い機会になった。

5. 今後、本協会「大学運営・経営委員会」で行う事業について

①希望するテーマ

- ・小規模大学のブランディングについて
- ・アカハラ
- ・効果的な SD/FD 研修会について
- ・学部学科運営や学部学科の改組、学部学科の廃止など
- ・M & A
- ・教育と研究の両立に関するテーマ
- ・大学運営や経営については、あまり理解ができておりません。運営や経営において管理者の役割だけでなく、管理者ではない教職員の役割や、運営・経営の参画の仕方などご教示いただけましたら幸いです。
- ・トップダウンとボトムアップについて
- ・このたびの講師の本間政雄先生より豊富なご経験や大学について更に広く深く研修テーマの機会に恵まれましたら大変有意に考えます。
- ・私立大学における人件費削減の工夫について
- ・今後の学生確保について
- ・教員と職員の協働促進策
- ・IR と大学経営・大学改革・学生確保・広報
- ・ガバナンス改革（改正私学法が明らかになった時点で改めて）
- ・私立大学における社会貢献
- ・受験数を増加させるための各大学の特徴的な広報の仕方
- ・大学院教育の活性化策
- ・看護教員間のセクショナリズム対策など
- ・私学のメリットをいかす運営について

②開催方法

- ・Web 開催（19 件）
- ・Web と対面のハイブリッド形式
- ・対面
- ・グループワーク（2 件）

③開催時期

- ・4 月（2 件）
- ・6 月（2 件）
- ・9 月（3 件）
- ・10 月（7 件）

④開催場所

- ・オンライン・オンデマンド（8 件）
- ・東京（3 件）
- ・大阪
- ・文科省

5. 渉外委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の発展のため外部の組織に働きかけ、看護教育並びに看護専門職としての充実・発展に必要な国の制度や法令、文教行政や予算、高大連携についての確かな情報収集と分析・整理
- ② 文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本看護系大学協議会、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、必要な提携・協力及び支援活動を企画・実施
- ③ 啓発活動のためのセミナーの実施
- ④ 上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

- 井部 俊子（長野保健医療大学）
- 河口 てる子（日本赤十字北海道看護大学）
- 坂本 真理子（愛知医科大学）
- 鳥袋 香子（北里大学）
- 長澤 正志（淑徳大学）
- 三国 久美（北海道医療大学）

3. 2022 年度事業活動報告

渉外委員会では、看護教育に関する関連省庁や関係団体の動きに関する情報収集及び関連団体との連携活動を行いながら、本協会の発展に向けた取り組みを検討するための活動を行っている。

- 1) 2022 年度自民党厚生労働部会看護問題小委員会に、2023 年度概算請求に対し看護教育の問題提示と看護政策の要望を行った。
 - (1) 看護学教育機関ならびに実習施設を含めた ICT 活用体制の整備
 - (2) 看護学教育のためのシミュレーション機器等の充実・整備
 - (3) 看護系大学が使用可能な教材プラットフォームの構築に向けた調査・研究
 - (4) 看護教員の雇用及び臨地実習施設における教育要員の配置
 - (5) 地域において「健康危機管理ができる看護人材の育成」のための看護学教育の改革
- 2) 日本看護系大学協議会との連携
 - (1) 高等行政対策委員会に出席し、2022 年度自民党看護問題小委員会への要望書の提出、研修会活動の企画運営に参加している。
 - (2) 高度実践看護師 APN グランドデザイン委員会に出席し、認定看護師教育における特定行為研修終了者の既習単位の認定、専門看護師分野の再編や統合、NP と CNS の関連・位置づけ等の検討に参加している。
- 3) 関係諸団体への情報収集
私立大学関係団体を訪問し、意見交換を行った。
 - (1) 私立大学連盟：私立大学における教育内容の充実に向けて、なお一層推進していくことに

ついて情報共有した。総合大学において看護学部より学長が選任される会員校が増加していることの情報提供がされた。高等教育等の最新情報を共有することの重要性について認識を共にした。

- (2) 私立短期大学協会：国内短期大学における看護学教育は私立大学が担っている現状を踏まえ、短期大学における看護学教育の現状について話し合った。短期大学の教員からも本協会の若手研究者研究助成に応募があり、採択されている実績を紹介した。
- (3) 日本私立大学協会：常務理事・事務局長から、本協会発足当時の様子や本協会の歴史等について話がされ、私立大学において特色ある教育と看護学教育を両立させることの大変さについて問題を共有した。
- (4) 日本私立学校振興・共済事業団：理事長より同事業団が経営する病院を視察した際に、看護マネジメント能力の重要性を感じたとの話があり、チーム医療・看護師のキャリア育成について意見交換を行った。
臨地実習施設における教育要員の配置等の現状を説明し、看護教育の課題について話し合った。本協会の事業内容や運営について説明し、私立大学における特色有る教育と看護学教育の両立の大変さについて問題を共有した。
- (5) 日本看護協会賀詞交換会：日本看護協会賀詞交換会に参加し、参加していた各団体役員や看護系出身国会議員と意見交換を行った。

4) 委員会活動

本会の重点事業にあげられている「地区活動」についてどのように検討していくかの課題を本委員会が担当することになり、まずは、各地区から選出され理事で進め方について話合いをもつことを提案した。今後、地区ごとに出された課題や意見を整理し、進め方について方針を検討していく予定である。

4. 今後の課題

- ・自民党厚生労働部会看護問題小委員会に出す要望書に向けた事前準備を行う。
- ・各関係団体との連携を深め、必要な情報を収集し、会員校に還元していく。

6. 広報委員会

1. 趣旨

- ① 本法人の目的の達成に寄与するため会報・その他刊行物の発行
- ② 会員校への情報伝達及び会員校間の情報交換
- ③ 本法人の活動の外部へのPRのためホームページの企画運営
- ④ 上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

2. 担当理事および委員（○：委員長）

鎌田 佳奈美（摂南大学）

濱中 喜代（岩手保健医療大学）

○守田 美奈子（日本赤十字看護大学）

3. 2022年度事業活動報告

1) 会報第47号・48号の発刊、会報第49号の計画

(1) 会報第47号は2022年5月1日に発刊

- ① 2021年度事業活動報告
- ② 2021年度特別事業について
- ③ 国際学会発表助成論文抄録
- ④ 理事会報告
- ⑤ 事務局からのお知らせ

(2) 会報第48号は2022年11月1日に発刊

- ① 会長挨拶
- ② 新規会員校紹介
- ③ 会員校の特色のある取り組みの紹介
- ④ 2022年度研究助成事業の選考結果報告
- ⑤ 役員一覧
- ⑥ 理事会・社員総会報告
- ⑦ 事務局からのお知らせ

(3) 会報第49号の計画

2) 2021年度年次報告書の発刊

2022年7月初旬に発刊

3) ホームページ

会員専用ページ（研修会動画配信）は、研修会の内容がイメージできるようなサムネイルやテー

マ等を表示し、視聴する人が興味を持つようにデザインを刷新するとともに、再生速度の調整などの機能を追加した。また、ホームページの利用状況を定期的に分析し現状を把握して、課題に対する改善策を検討してきた。

状況分析は以下のとおり。

- ・月曜日から木曜日の夕方以降のアクセスが多い。
- ・お知らせや研修会などの新しい記事を掲載した際に訪問者数が伸びている。
- ・年間を通して7月から9月が最も訪問者が増加し、10月から12月が最も訪問者が減少する傾向にある。減少する理由としては研修会等の開催が少ないことが考えられる。
- ・研修会ページへの訪問者が多い。これらのページはトップページのバナーと新着情報からの遷移がほとんどを占めていることからユーザーが得たい情報に迷わずアクセスできており、ホームページを刷新したことが順調に機能していることを示している。
- ・パソコンからの閲覧が約80%を占め、スマートフォン・タブレットからの閲覧者は少ない傾向にある。また、研修会講演を配信している会員専用ページにおいてはパソコンからの閲覧が約93%となっている。
- ・新規ユーザーとリピーターの比率は4:1程度であり、安定して新規ユーザーが訪れているサイトと言える。
- ・ユーザー1名あたりのセッション数は1.6程度であり、必要な情報だけを見て離脱するユーザーが多い。
- ・前期に引き続き会員校情報ページも多く閲覧されている。会員校より学内の催事等の周知依頼があれば新着情報に掲載し、会員校のホームページにリンク付けすることも多い。関係諸団体や所轄省庁らの周知依頼等も適切に新着情報に掲載しており情報提供は有効に機能していると言える。

4) 委員会

①第1回広報委員会

日時：5月20日（金）13：45～15：00

方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：濱中喜代、三国久美、守田美奈子（五十音順、敬称略）

コーディネーター：萩島氏、木村氏、中井氏

議題：1) ホームページについて

2) 2022年度事業活動計画について

②第2回広報委員会

日時：8月10日（水）13：00～14：30

方法：Zoomを用いたWeb会議

出席者：鎌田佳奈美、濱中喜代、守田美奈子（五十音順、敬称略）

コーディネーター：木村氏、中井氏

議題：1) ホームページについて

- 2) 会員専用ページについて
- 3) 会報第 48 号について

③第 3 回広報委員会

日時：11 月 2 日（水）15：00～15：45

方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：鎌田佳奈美、濱中喜代、守田美奈子（五十音順、敬称略）

コーディネア（株）河口氏、木村氏、中井氏

議題：1) ホームページについて

- 2) 会報第 49 号について

④第 4 回広報委員会

日時：2023 年 1 月 26 日（木）11：30～13：00

方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：鎌田佳奈美、濱中喜代、守田美奈子（五十音順、敬称略）

コーディネア（株）河口氏、中井氏

議題：1) ホームページ運営について

- 2) 2023 年度事業活動計画について

⑤第 5 回広報委員会

日時：2023 年 2 月 28 日（火）17：30～19：00

方法：Zoom を用いた Web 会議

出席者：鎌田佳奈美、濱中喜代、守田美奈子（五十音順、敬称略）

（株）ギークピクチャーズ 佐野氏、高橋氏

議題：1) 看護職をアピールするための広報活動について

4. 今後の課題

- ・HP に関する定期的な業者との打ち合わせ会議を継続すると同時に、迅速かつ適切な情報配信を行うことで HP の充実を図る。
- ・年 2 回の会報に際しては、読みやすさなどにも配慮し、紙面の充実を図る。

7. 2022 年度特別事業 地区活動について

選挙区ごとの理事による地区活動に関する会議を開催し、私立看護系大学の発展に向けた地区活動について、活動を進める上での課題、どのような活動ができるか、などについて話し合った。

各都道府県の状況や既にあるネットワークについての情報を共有し、各県や地区での活動状況は様々であることが分かり有意義であった。

理事会においては、地区区分の範囲が広く活動がしにくい課題や既にある日本看護系大学協議会災害支援対策ブロックと混在することでの混乱への懸念が提示された。そこで、日本看護系大学協議会災害支援対策ブロックに合わせて本協会の選挙区の見直しは可能か検討し、現行の選挙区を変更しても定款に定める理事定数内に収まり、役員候補者選出規程の大幅な変更の必要がないことを確認した。新たな活動の在り方を探ることは可能か継続検討することとした。

○地区選出理事による地区活動に関する意見交換会

・北海道・東北地区

日時：2023年1月5日（木）13時30分～14時30分

出席者：河口 てる子、濱中 喜代、三国 久美（五十音順、敬称略）

・関東（東京以外）地区

日時：2023年1月24日（火）10時00分～11時00分

出席者：櫻井 しのぶ、島袋 香子、棚橋 泰之、長澤 正志、野末 聖香（五十音順、敬称略）

・東京・甲信越地区

日時：2023年1月13日（金）13時00分～13時55分

出席者：麻原 きよみ、井部 俊子、守田 美奈子（五十音順、敬称略）

・中部地区

日時：2022年12月22日（木）17時15分～18時00分

出席者：坂本 真理子、百瀬 由美子（五十音順、敬称略）

・近畿地区

日時：2022年12月19日（月）10時00分～10時35分

出席者：赤澤 千春、江川 隆子、鎌田 佳奈美（五十音順、敬称略）

・中国・四国・九州・沖縄地区

日時：2023年1月31日（火）11時00分～12時00分

出席者：田村 由美、中新 美保子、日高 艶子（五十音順、敬称略）

○地区会員校による意見交換会

北海道・東北地区においては2023年2月27日に会員校11校（出席者12名）により情報交換会を開催し自校紹介の他、抱えている課題などについて共有し、出席者のメールアドレスを共有した。